

青地林宗訳ナポレオン伝「別勒阿利安設戦記」の典拠に関する 書誌的考察

松田 清

はじめに

『神田佐野文庫若林正治コレクション蘭学資料目録（補正版）』（電子版、二〇一八年一月一日公開¹）を編集する過程で、「那波列翁再興軍記」と題する、全一四章からなるオランダ語写本を見いだした。この写本は文久年間の成立と推定されたが、オランダ語の原文は幕府天文方高橋景保が文政九年（一八二六）七月に、蘭学者青地林宗に翻訳させた「別勒阿利安設戦記」と内容的に一致するものと判明した。景保は同月、阿蘭陀通詞吉雄忠次郎を訳者に加え、自ら校訂した「別埒阿利安設戦記」を著した。

「別勒阿利安設戦記」および「別埒阿利安設戦記」は景保が同年四月、参府したオランダ商館長ストゥルレルにフラン

ス革命・ナポレオン戦争の最新情報を求め、その聞書をまとめた『丙戌異聞』を補うもので、江戸時代最初のナポレオン伝として、幕末に至るまで写本で流布している。

本稿は題目の通り、青地林宗訳ナポレオン伝「別勒阿利安設戦記」の典拠について、書誌的考察を行うものであるが、「別埒阿利安設戦記」の典拠については先行研究として、磯崎康彦（二〇〇五）に次のような書誌的記述がある。

高橋は、文政九年四月、『丙戌異聞』を著したあと、あまり時を経ずして桂川家から『一八一五年の最も注目すべき戦事』（Merkwaardigste Oorlogsgesbeurtenissen van het Jaar 1815）という蘭書を借用した。桂川家でも、この頃参府の阿蘭陀人から入手したと想像される。これは、横五・三cm、縦七・八cmで四八ページからなる小型

本で、円形着色銅版画（直径四・四cm）と組み、木箱にいれられていた。（中略）高橋景保は、蘭書『一八一五年の最も注目すべき戦事』を手にし、一八一五年のナポレオン伝と知るや、天文台の訳員吉雄忠次郎と青地林宗に翻訳させた。訳出されたのが『別埒阿利安設戦記』である。

『別埒阿利安設戦記』の原本「一八一五年の最も注目すべき戦事」は、その銅版画挿図とともに桂川家から流れて泉石の所蔵品となっており、文久二年（一八六二）画学局に入学した高橋由一に閲覧された。（傍線、引用者）

典拠の所蔵先は明示されていないが、行文から、記述の対象となっているのは、『鷹見家歴史資料目録』（茨城県古河市教育委員会、一九九三）の「洋書の部」七頁に左記の記載がある資料であろう（記載のまま忠実に引用した）。同目録の口絵写真によって資料の形状が、ある程度分かる。

二三 Stetner, T. :

Eure Thaten Bewundern Millionen (Gloria, 1815, Heil dem Frieden er Segnet Reich die Erde, 1815, Merkwärdigste oorlogsgeneurtenissen van het Jaar 1815. 6blz. 12p. 48 blz. 8/5 cm.⁽⁴⁾

上記引用の傍線部のごとく、磯崎はこの原本が「銅版画挿図とともに」桂川家の旧蔵品であり、「流れて」、鷹見泉石の所蔵となった、と断定しているが、その根拠は示されていない。

一方、塚原晃（二〇〇七）は「別埒阿利安設戦記」末尾の高橋景保の後記、

和蘭人近時揆乱及正ノ盛ヲ紀シテ、其王子奮戦図ノ週ニ掲鏤セシモノナリ。蓋彼カ功烈ヲ後世ニ輝サントナルヘシ。故ニ唯其梗概ヲ述ルノミ。此頃桂川氏ノ所蔵ナルヲ乞テ訳セシノ甲比丹「スワルレル」カ説話ト併セテ、當時ノ光景ヲ観ルノ一助ニ備フト云フ⁽⁵⁾

を引用したうえで、桂川家所蔵の原本の形状について、磯崎康彦（二〇〇五）の「オランダ製の銅版画版いり小冊子を原本と想定する説」（塚原）に対し、

「王子奮戦図のまわりに掲鏤せし」という表現からすると、「別埒阿利安設戦記」の原本が書籍形態というよりは、「王子奮戦図」という画像の周囲に同内容の文章が綴られた、大型の銅版画もしくは石版画だった能性も否

定できない。⁶⁾

と疑問を呈している。

本稿では、以上の先行研究を踏まえ、青地林宗訳「別勒阿利安設戦記」写本（国際日本文化研究センター所蔵）、および、その典拠である「記念メダル入り一八一五年ナポレオン戦役銅版図」（仮称）・解説冊子『一八一五年戦役要録⁷⁾』(Markwaardigste oorlogsgedachtenissen van het Jaar 1815. の完全セット（神田外語大学附属図書館神田佐野文庫、新収資料）について書誌的考察を行い、合わせて、「別勒阿利安設戦記」・オランダ語原文の翻刻対照を、オランダ語原文の日本語訳とともに提示する。

1 青地林宗訳「別勒阿利安設戦記」写本

フランス革命・ナポレオン戦争の初情報

近代国民国家誕生の決定的モメントとなったフランス革命（一七八九～九五）とナポレオン戦争（一七九六～一八一五）の情報と同時代の鎖国日本に届くには、西欧諸国のなかで唯一日本との交易を許されていたオランダが大きな障壁となった。オランダは一七九三年フランス革命軍の侵略を受け、フランスの属国（衛星国）バタヴィア共和国（一七九五～一八

〇六）、ナポレオン一世の弟ルイ・ボナパルトを国王とするホラント王国（一八〇六～一〇）を経て、一八一〇～一八一三年にはフランスに併合されてしまった。長崎のオランダ商館長は日本貿易の権益を守るため、幕府に対してフランス革命とナポレオン戦争の正確な情報を秘匿していたのである。オランダ商館長が秘匿していた新情報を初めて幕府が得たのは松前に抑留された一人のロシア人捕虜からだった。ロシアの女帝エカテリーナ二世が南下政策を進めるために日本に派遣した使節レザノフの部下、フヴォストフが文化三年（一八〇六）にクナシリを、翌年にエトロフを連続して襲撃した

いわゆる露寇事件のために、幕府は報復として、ロシア艦長ゴローニンらを捕らえ、松前に捕囚とした。ムールというゴローニンの部下が日本帰化を願って文化九年（一八一二）四月五日に松前奉行荒尾但馬守に提出した陳情書「魯西亜人モウル存寄書」（ムール獄中上書）にフランス革命・ナポレオン戦争の最初の情報が含まれていたのである。

しかし、ムールのもたらしたフランス革命情報は一七九一～九二年間に「払郎察国中大ニ騒乱仕候事有之候より欧羅巴大ニ变革仕、その国之法制並神明国民共、発乱仕、終二千七百九十三年ニ至り、其国王並皇后を殺害仕⁸⁾」と断片的なものであった。ナポレオン皇帝については

払郎察当今之帝王は名前をナポレオンと唱へ、其昔は小

身之士ニ御座候処、其性俊傑ニ而軍旅ニ長じ候人ニ而御座候ニ付、直ニ大官ニ登られ、イタリヤ並ニエギベツ（エジプト）之地方を打取候而帰国仕候節、コンスウと申第一等之官ニ登り姓名をナポレオン、姓をボナバルトと改申候

と出自から第一執政就任（一七九九）までの略伝が初めて伝えられた。ナポレオンが皇帝に即位した一八〇四年頃のヨーロッパ情勢は、「欧羅巴^{（全洲并吞）}」をねらう「払郎察」（ナポレオン）と、同盟諸国と和平を志向しつつ戦争に備える「魯西亜王」（皇帝アレクサンドル）との対立構図として説明される。

千八百四年諸方之合戦誠ニ血を流し候事溝漚の如く相成候、魯西亜王右之様子実ニ見るニ忍び不申、大ニ苦心仕候而再び新ニフランス・アンゲリヤ等和睦之事取扱勤勞候得共、一向整ひ不申、払郎察常々欧羅巴^{（全洲并吞）}之事のミ申候ニ付、自国之親類又は同盟之国々^{（ポロツキヤ、ザルマニア、プロシヤ、第ニ候由申聞候）}之為且は志し候所ニ齟齬仕候ニ付、魯西亜も兵器を握り候様相成申候

ムールは続けて、オランダ商館長が秘匿したフランスの属国から併合へと歩んだオランダの運命について、

此時分払郎察第一之コンスウ^{（義ニ御座候）}之帝王之位ニ即き其兄弟を以、阿蘭陀意太里亜等ニ諸候と仕候（中略）

和蘭陀は悪む処有之候ニ付、初半国取揚、半国を和蘭陀と唱へ居申候得共、其後又々皆国并吞仕、アムステルダム^{（和蘭陀第一之都）}之テレチイム・ゴードム^{（義ニ御座候）}と払郎察王名付申候

と曖昧ながら、ナポレオンの皇帝即位（一八〇四）、弟ルイ・ボナパルトのホラント王国成立（一八〇六）、フランスへの併合（一八一〇）の大筋を語る。「意太里亜等」とは兄ジョセフ・ボナバルトをナポリ国王（一八〇六）、スペイン国王（一八〇八）に立てたことを指す。「テレチイム・ゴードム」（Терциумъ）は「第二之都」と誤った注が付けられているが、皇帝ナポレオンがアムステルダムをパリ、ローマに続いて「帝国第三の都市」（La troisième ville de l'Empire）と呼んだことを指している。ナポレオン自身がイタリア国王（一八〇五〜一八一四）であった。

ムールからの情報によりフランスのオランダ併合を知り、ヨーロッパの大国はロシア、イギリス、フランスの三国と認識した幕府は、ロシアの南下に対抗すべく、天文方高橋景保に北方研究を命じた。景保はロシアとその背後のヨーロッパの最新情報を渴望していた。

景保にとつて、一八二六年のオランダ商館長江戸参府は願ってもないチャンスであった。景保は、商館長ストウレルからナポレオンの皇帝（王）即位（一八〇四）、オランダ

の敗戦と国王の英国亡命、ナポレオンのロシア遠征からの退却（一八一二）、ワートルローの戦い（一八一五）におけるオランダ皇太子の英雄的活躍、ナポレオンのセントヘレナ島への流刑、オランダ王国の復興などを知らされた。

景保は文政九年四月（一八二六年五月）商館長ストゥルレルからの聞書を「丙戌異聞」としてまとめるや、同年七月に、日本最初のナポレオン伝「別勒阿利安設戦記」を蘭学者青地林宗（名は盈、号は芳澁）に訳させ、さらに訳者として阿蘭陀通詞吉雄忠次郎（名は永宜、字は永民、号は吳洲）を加え、自ら校正して、吉雄宜・青地盈同訳・高橋景保校「別勒阿利安設戦記」を完成させた。

青地林宗訳「別勒阿利安設戦記」写本

今から二〇年以上前、高橋景保関係資料の収集家であった大阪の古書店、宮崎書店の主人が「天文方洪川家文書」（全八冊）を所蔵していた。シールボルト事件による高橋景保の処罰後、天文方洪川敬直（六歳）が入手した景保旧蔵文書である。前述のように、文政九年四月に景保が商館長ストゥルレルからの聞書をまとめた「丙戌異聞」、および同年七月に景保が青地林宗、吉雄忠次郎に訳させ、みづから校正した「別勒阿利安設戦記」の清書稿、その元となった青地林宗訳「別勒阿利安設戦記」写本^⑩、さらに文化九年四月、我が国に初めて

フランス革命とナポレオン戦争の情報をもたらした「魯西亜人モウル存寄書」など、景保の西洋事情探索に関わる一級史料が、左記のように全八冊の第一冊、第二冊、第五冊に分けて綴じられていた。

第一冊 ①「文政九年丙戌四月 和蘭甲比丹ステュルレル 対話筆記原稿扣」

②「丙戌異聞」草稿二種（丙戌四月橋景保記）および「高橋景保謹述」

第二冊 ③「魯西亜人モウル存寄書 乾」（天文方洪川敬直 自筆校）

④「魯西亜人モウル存寄書 坤」（高橋景保の助手 浦野元周の筆写・校正本、文政九年冬成）

第五冊 ⑤「別勒阿利安設戦記 青地盈訳」写本（文政丙戌七月 芳澁散人訳）

⑥「別勒阿利安設戦記 吉雄宜・青地盈同訳 高橋景保校」（跋文に「文政九年丙戌初秋橋景保誌」とあり）

右「天文方洪川家文書」はその後、国際日本文化研究センター所蔵となり、拙著『洋学の書誌的研究』（一九九八）においてその第八冊に含まれる欧文史料を中心に考察すること

が出来た。¹¹⁾しかし、上掲①～⑥については、簡略な紹介に留まっていた。何よりも、⑤「別勒阿利安設戦記」、⑥「別堦阿利安設戦記」の原典が当時は不明であったためである。一八一五年六月一八日の「ワートルローの戦い」を戦勝国側は通称「ベル・アリアンス」と呼ばれていた農場の地名にちなんで、「ベル・アリアンスの戦い」と呼んでいた。原典の探索にあたって、タイトルにはその「(1a) Belle Alliance」の語句が入っているとの前提で調査を進めたが、徒労に終わったのだった。

佐久間象山旧蔵蘭書『ワートルロー戦記』

佐久間象山旧蔵の左記オランダ語原書『ワートルロー戦記』（長野市立博物館所蔵）は確かに、標題に *Belle Alliance* の語句を含んでいたが、内容的に「別勒阿利安設戦記」の原典とは認められなかった。

Naauwkeurige en omstandig verhaal van Buonapartes laasten veldtocht, geëindigd door den slag van Waterloo, of van Belle Alliance. Door eenen oofgetuige. Uit het Fransch vertaald. 's Gravenhage, Nederlandsche Boekhandel: Veenstraat, N. 147. 1815. [3]94 pp. 8vo. (標題の和訳「いわゆるワートルローまた

はラ・ベル・アリアンスの戦い、すなわちモン・サン・ジャンの戦いで終結したボナパルト最後の野戦の精密詳細な報告。ある目撃者著)

「象山書院」蔵書印のあるこの蘭書は、長野市の犀北館主人近山与一郎旧蔵「象山遺物八点」の一つとしては伝わった。仮綴じ本であり、ハーファイトルページ全体を切り取って、そのハーファイトル「VERHAAL / VAN DEN SLAG / VAN WATERLOO」(ワートルロー戦記)と文字飾り(欧文二行、判読不能)とを切り抜き、表紙の上部中央に題簽として貼付している。おそらく日本人の旧蔵者(阿蘭陀通詞か)の手によるものであろう。

この蘭訳のフランス語原著は匿名出版の「François Thomas Delbare.」*Relation fidèle et détaillée de la dernière campagne de Buonaparte, terminée par la bataille de Mont-Saint-Jean, dite de Waterloo ou de La Belle Alliance. Par un témoin oculaire.* Paris, J.G. Dentu, 1815. 248p.

本書はフランス王党派の立場から書かれている。¹²⁾その序文の言葉を借れば、「ナポレオンを「フランス国民の永遠の恥さらし」、その安寧を絶えず乱し、ヨーロッパを荒廃させた張本人、我らの血を流させた死刑執行人、要するに、フランスを襲い苦しめているあらゆる厄災をもたらした化け物」(1a

honte éternelle de la nation, le perturbateur constant de son repos, le dévastateur de l'Europe, le bourreau de notre sang, le monstre en un mot, à qui la France doit tous les maux qui l'accablent...) ヲリト描ベ。ちぢみナ。蘭訳の該当箇所は / Frankrijks eeuwige schande, de gestadige verstoorder van deszelfs rust, de verwoester van Europa, de beul onzer kinderen, in één woord, dat monster aan wien Frankrijk alle de onheilen die het drukken verschuldigd is... となつており、原文の「我らの血」を「我らの子どもたちの血」と敷衍して、若い兵士の犠牲を強調している。

2 蘭文写本「那波列翁再挙軍記」の出現

「蘭書抜粋録」

二〇一八年七月、本学附属図書館所蔵神田佐野文庫の「若林正治コレクション蘭学資料目録」電子版を公開した。⁽¹⁾この目録に記載した、資料番号D182（整理番号32837）の「蘭書抜粋録」三卷三冊は、左記の一五点に及ぶ蘭書の抜粋からなる抄本である。

(1) ニューウェンホイス『学芸百科事典』

Gerrit Nieuwenhuis, *Algemeen woordenboek van*

kunsten en wetenschappen. F. J (3de deel). Zutphen, 1822.

(2) オランダ共益会社『理学教科書』

Maatschappij tot Nut van t Algemeen, Natuurkundig schoolboek. Erste stukje. Leiden, Deventer, Groningen, 1828.

(3) 『一八三一年版オランダ逸話年鑑』

Nederlandsche anekdoten almanak voor 1831. Franeker. 1830.

(4) スペンゲンユルク『化学教程』

F. van Catz Smalenburg, *Leerboek der scheikunde*. Erste stuk. Leyden, 1827.

(5) ゲッセル『ボクシテス内科書』

David van Gesscher, *Heelkunde van Hippocrates*. Erste deel. Amsterdam, 1791.

(6) スウエディオール『梅毒論』

Franz Swediaur, *De venersche ziekten*. Tweede deel. Amsterdam, 1820.

(7) ホーングルプ『オランダ領東インドの考察』

Carel van Hogendorp, *Beschouwing der Nederlandsch bezittingen in Oost-Indië*. Amsterdam, 1833.

(8) コムラナー『一般病理学提要』

- J. W. H. Comradi. *Handboek der algemeene ziektekunde*. Amsterdam, 1833.
- (9) クルネル 『算数基礎』
Jacob De Gelder. *Allererste gronden der cijferkunst*.
Eerste deel. 3de dr. Amsterdam, 1824.
- (10) シュルレーヤン 『古今諸民族興亡盛衰起源論』
Cornelis Zillesen. *Onderzoek der oorzaken van de
opkomst, het verval en herstel, der noornaamste oude
en hedendaagsche volken*. I deel. Utrecht, 1781.
- (11) 『一八一五年戦役要録』
Merkwaaardigste oorloggebeurtenissen van het jaar
1815. n.p. ca. 1816.
- (12) フアン・ハウテン 『蒸気機関』
Willem van Houten. *Het Stoom-werktuig*. Breda,
1830.
- (13) ヴ・フリーセ 『薬剤学提要』
W. H. de Vriese. *Handboek voor de kennis der
geneesmiddelen, ten behoeve van beoefenaars der
genees-, heel- en artsenijsberickunde, naar de
tegenwoordige vorderingen der natuur- en
geneeskundige wetenschappen zamengesteld*. Eerste
deel. s. Gravenhage, Amsterdam, 1837.
- (14) メイリンク編 『化学・薬学・理学文庫雑誌』
Bernardus Meijlink. *Schei- artsenijsmengen- en
natuurkundige bibliotheek*. Deventer, 1824-1834. 18
vols.
- (15) ボイス編訳 『新修学芸事典』
Egbert Buys. *Nieuw en volkomen woordenboek van
konsten en wetenschappen*. Eerste deel. Amsterdam,
1769.

各冊の表紙には抜き書きした記事の邦訳名を列挙した目次が脇題簽の形式で貼付されているが、写本全体には書名が与えられていないため、「蘭文抜粋録」の書名を与えた。

(13) ド・フリーセ 『薬剤学提要』からの抄録記事は第3冊に「薬局雜記」の書名で収録され、本文冒頭のタイトルに「Extraction van de kennis der geneesmiddelen (後略、下線は引用者)」と英語 Extraction が用いられている。これによつて、この抄本は蘭学者の間に英語が普及し始めた文久年間(一八一六―一六三)の成立と推定される。

筆跡は三冊とも同一人物の手になるが、筆者は同定できていない。成立時期と抄録されたオランダ語原書一五点の構成から、当初、箕作阮甫と川本幸民が筆者の候補に浮かんだ。

しかし、国会図書館憲政資料室所蔵箕作家文書、横浜市立大
 学学術情報センター所蔵川本幸民旧蔵蘭文写本を検討したと
 ころ、筆跡は一致しなかった。

この『蘭書抜粹録』第二冊(全五六丁)から「那波列翁再
 挙軍記」(表紙の目次による)と題するオランダ語写本(一
 二丁分)が見つかった。上掲の(11)『一八一五年戦役要録』
 (Merkwaardigste oorlogsgebeurtenissen van het jaar 1815,
 n.p. ca. 1816) をタイトルを含めて、全文筆写したものであ
 る。第1章「ウィーン会議」から第14章「ベル・リアンス
 農場」まで全一四章からなる。筆写された原タイトルの脇に
 は、前小口に近い箇所に、表紙の目次とは異なる「那波列翁
 再興軍記」(傍線は引用者)の書名が見出しとして墨書され
 ている。

写本のタイトルと章題を以下に摘録する。綴りは大文字の
 使用法、書き誤りなどは正さず、写本のままとする。

那波列翁再興軍記

Merkwaardigste / Oorlogsgebeurtenissen / van het /

jaar 1815.

1. Congres te Weenen.
2. Buonaparte's vlugt van Elba / en landing in frankryk
3. Bestorming van het bruggen., / hoofd van Ochio

bello.

4. Intogt der keizerlyke oosten., / ryksche armee in
 Napels.

5. De slag by belle alliance onder / Blucher en
 Wellington.

6. Terrugtogt van het fransche / leger.

7. Vorst Wrede neemt Saar., / gemunden, Saarbruggen
 / met storm in.

8. De Russen bestormen chalons.

9. Intogt der bondgenooten in / Parys.

10. Buonaparte geeft zich aan / de Engelschen over.

11. De belegering van Huningen / door de
 oostenrykers.

12. Het Eiland St. Helena.

13. Heldenmoedige verdediging van / den post les
 quatre bras door den / Kroonprins der nederlanden
 / in den slag van belle / Alliance.

14. De hoeve la belle alli., / ance.

本文の大文字の使用法は版本から直接抄録したものではな
 く、他の写本を転写したことを示している。他本との校合の
 跡はみられない。地名、人名など固有名詞には原文のイタ

リック体を示すために下線が施されている。抄録者によると思われる訳語の書き入れは、第1章～第3章のみに限られ、他の章には認められない。したがって、抄録者は最後まで通読したとは思われない。

第1章の章題「Congres te Weenen」には「Congres 同盟国ノ貴臣奉使会盟某地」「Weenen 地名」の書き入れ、また、「In weenen zou een Congres, van alle Europese Mogendheden, plaats vinden (…)」(ウイーンではヨーロッパの全ての強国が参加する会議が行われることとなる、の意)には、「Mogendheden 酋長」との書き入れがある。また、本文に現れる月名にはその都度、「febr. 第二月」「Maart 第三月」などの訳語を加えている。これらの特徴から判断するに、抄録者のオランダ語力はそれほど高くないようである。

この写本は明らかに、写本の作られた文久年間を遡ること三五年ほど前、文政九年(一八二六)七月に翻訳された我が国最初のナポレオン伝、青地林宗訳「別勒阿利安設戦記」、これをもとにした高橋景保校・青地林宗・吉雄忠次郎訳「別埒阿利安設戦記」の原典「Merkwaaadigste oorlogsgebeurtenissen van het jaar 1815. de a.°.

この蘭文写本「那波列翁再挙軍記」の出現が動機となつて、論者は本稿を準備することとなった。当初はこの蘭文写

本のみが手がかりであり、オランダ語原典に接する機会を得ないままであった。そのため、まずは、蘭文写本の章題と上掲「天文方洪川家文書」の⑤青地林宗訳「別勒阿利安設戦記」写本、および、景保の校正を経た青地林宗・吉雄忠次郎訳⑥「別埒阿利安設戦記」の章題を比較することから始めた。

すなわち、次に掲げることく、⑤⑥それぞれ各章の本文訳文は省略し、⑤の末尾の訳者芳辞散人(青地林宗)の識語、およびオランダ語の「賛語」二種、翻訳の経緯を述べた⑥の高橋景保の跋文のみを翻刻し、「賛語」には試訳を付けた。青地林宗は恐らく「賛語」が難解なため、翻訳を省略し、転写するにとどめている。なお、句読点、濁点、() 内のルビは翻刻者が加えた。

〔⑤〕別勒阿利安設戦記

- 第一 勿能ウエーテの会
- 第二 ボナバルテエルバ島を出払郎察に向
- 第三 ヲクシヨベロ合戦
- 第四 独逸都勢那波里に入
- 第五 ベッレアッリアンセにブリュセル、ウエリングトンの勇戦
- 第六 払郎察兵の引口

Dank u Helden!
 Gy kampd 't met hooge Sterkheid
 voor de heilige regt van de
 Volt heren[sic: Volkeren].
 And[sic] uwe gtoute[sic: stoute] daaden
 Zal bewonderen de toekomstende
 geslogt[sic: geslagt]
 van de menschen.



goude Vreede
 hond[sic: houd] op onze vloeren
 en verniel van het oorlog
 de vreeslyk Spoenen[sic: Spooen]
 O in dyne mild Zon Schyn
 gaders[sic: gadert] vrolyk de Zaacman[sic: Zaaiman]
 Zyne garven.



黄金の平和よ
 我が家の床を支えよ
 そして打ち払え 戦争の
 恐ろしい爪痕を
 ああ 貴方の柔らかな日の光のなかで
 種蒔く人は楽しげに集める
 藁束を

貴方たちは戦った
 高貴なる武勇をもって
 諸国民の神聖なる
 権利のために
 そして、貴方たちの勇敢なる功績は
 必ずや驚かせる
 未来の人類を

(試訳)
 英雄たちよ 感謝！
 貴方たちは戦った
 高貴なる武勇をもって
 諸国民の神聖なる
 権利のために
 そして、貴方たちの勇敢なる功績は
 必ずや驚かせる
 未来の人類を

賛語あり略す 原本写書なれば読かねたる所も多く
 御座候 大概を訳草せしなり
 文政丙戌七月 芳辭散人訳

- 第七 ホルストヴレーデの兵サールゲミュンデンサー
- 第八 魯西亜の軍カロンヌス府を襲ふ
- 第九 同盟の諸軍把理斯に入
- 第十 ボナパルテ諸厄利亜人に投ず
- 第十一 独逸都の兵フニンゲン城を抜
- 第十二 シント・ヘレナ島
- 第十三 和蘭の王子勇戦
- 第十四 ベレアリアンセ府 此条誠に読かたし故に略訳す

〔6〕別埒阿利安設戦記

- 第一 勿能の会 ウエーネ
- 第二 ボナパルテ「エルバ」島を逃げ払郎察を襲ふ事
- 第三 「ラクシヨベルロ」橋頭の合戦
- 第四 独乙都の兵那波里に乱入す
- 第五 「ベルレアルリアンセ」名地に於て「ブルセル」「ウエリングトン」名地の勇戦
- 第六 払郎察兵の引口
- 第七 「ウレーデ」王の兵「サールゲムンデン」「サールブルゲン」を攻取る事
- 第八 魯西亞の軍カロンヌ」府に乱入す
- 第九 同盟の諸軍把理斯に入
- 第十 ボナパルテ諸厄利亜人に投ず
- 第十一 独逸都「フニンゲン」城を抜く
- 第十二 「シントヘレナ」島
- 第十三 和蘭の王子「ボストレス。クワテレブラス」名地
- 第十四 ベレアリアンセ府

右一卷和蘭人近時揆乱反正の盛を紀して其世子奮戦図の週まわりに掲鏤せしものなり。蓋彼が功烈を後世に輝さんとなすべし。故に唯其梗概を述るのみ。此ころ桂川氏の所藏

なるを乞ふて訳せしめ、甲比丹スツルレルが説話と併せて、当時の光景を觀るの一助に備ふと云、文政九年丙戌 初秋橘景保誌

高橋景保の跋文は、『一八一五年戦役要録』の本文が当時「桂川氏の所藏」であつたこと、しかも「世子奮戦図の週まわりに掲鏤」したものを「乞ふて」、青地林宗に訳させたことを伝えている。当時、官医桂川家の主人は蘭学者桂川甫賢（一七九七〜一八四四）である。また、林宗は、上掲引用にあるように、「原本写書なれば読かねたる所も多く」「大概を訳草」したにすぎないと断っている。

林宗が転写するに留まつた「贅語」は、景保がオランダ皇太子の「奮戦図」を取り囲む形で「彼が功烈を後世に輝さんとなるべし」と推測したオランダ語原文と、どのような関係にあるのか。次章で説明しよう。

3 原典『一八一五年戦役要録』の書誌的考察

所藏先とオークションカタログ情報

青地林宗訳『別勒阿利安設戦記』の原典『一八一五年戦役要録』(Merkwaardigste oorlogsgesbeurtenissen van het jaar 1815)は稀観本である。調査当初、公共機関ではドイツ、

ワイマールのアンナ・アマリア公妃図書館 (Hertogin-Anna-Amalia Bibliothek) とライデン市立美術館 (Museum De Lakenhal)・アメリカのインディアナ大学の三方所のみが所蔵していることを知った¹⁵⁾。

ライデン市立美術館所蔵品 (Inv.nr. 3225) は Gedenkdoosje met een medallionvormige verpakking en een boekje。(メダイヨンの形をしたパックと小冊子を入れた記念小箱) とのタイトルを付けて、ホームページに左記の写真 (図1) を掲載していた。この写真には『一八一五年戦役要録』の本文第1頁が写っており、『Merkwaardigste / oorlogsgebeurtenissen / van het / Jaar 1815』の内題と第一章 (1. Congres te Weenen.) の冒頭が認められた。同館にこの小冊子の復写または写真データの提供を申請したが、二〇一九年秋まで工事で閉館中のため、提供できない旨の返事が届いた。かわりに、ホームページ掲載写真の「写真データの提供を受けた」。

これによって、「メダイヨンの形をしたパック」とは南ドイツのアウグスブルクやニュルンベルク、オーストリアのウィーンで一七〜一九世紀に盛んに作られた「ネジ蓋式メダル」(Schraubmedaille, Screw-medal) の一種であることが分かった。一八一三年から翌年にかけて、ドイツ諸邦がナポレオンの侵略と圧政から解放されると、この「解放戦争」

(Befreiungskriege) 勝利を記念して、この種の記念メダルが続々と製造販売されたのである。

写真右下のメダルの蓋の表面には、浮き彫りの豊饒の女神(ローマの農耕神プロセルピナ)の像があり、周囲に「HEIL DEM FRIEDEN! ER SEGNET REICH DIE ERDE!」(自由万歳! 自由は世界を豊かに祝福している) とのドイツ語の刻文、また製造者の刻銘「T. Stettner fec.」を確認できた。この製造者はニュルンベルクのメダル製作者、ヨハン・トマス・シュテットナー (Johann Thomas Stettner, 1785-1872) である。



図1 1815年戦役銅版図一式
Inv. nr. 3225 Museum De Lakenhal, Leiden.

また、中央の小箱に嵌め込まれたメダルの底には、青地林宗が「賛語」として転写した「Dank U Helden!」で始まるオランダ文も確認できた。

メダルとともに小箱に収められた『一八一五年戦役要録』の第1ページ第1章は、下段の一番左に置かれたウィーン会議の図に対応している。小冊子は、上下二段に並べられた小円形の銅版図の解説冊子であることが判然とした。

一方、ワイマールの Hertogin Anna Amalia Bibliothek 所蔵品 (Signatur: 267576-A) は同館電子カタログに次のように詳しく記載されていた。

小冊子 (四八ページ、五×七・八cm) はメダイユ一箇とともに、発刊当初の箱 (九・二×六・八cm) に嵌め込まれており、箱には、犁で耕す農民の後方をフランス軍部隊が退却し、部隊の頭上の大木が落雷に遭っている図と同盟軍兵士が地面に横たわる戯画的なナポレオン (半身人間、半身ネズミ) を突き刺す図が描かれている。銀色のメダイユ (直径五cm) は錫製で、ヨハン・トマス・シュテットナーの製作による。メダイユにはテキスト付きの紙葉が二枚貼り付けられている。中に入れられた蛇腹式 (Leportalform) に綴じた彩色銅版画七枚は裏表両面に1から14まで番号が付けられ、メダイユの底に固定された絹のリボンで繋がれている。銅版画は第六次同盟戦争 (一八一二―一八一四) からナポレオンの

セント・ヘレナ島への流刑にいたる場面を描いている。メダイユの刻文には「EURE THATEN BEWUNDERN MILLIONEN」(あなた方の功業は幾百万人もの人々を感嘆させている)、「HEIL DEM FRIEDEN! ER SEGNET REICH DIE ERDE」(試訳は前出)とある。⁹¹⁾

調査の過程で、オランダ・ユトレヒトの古書店 Forum が蘭文の『一八一五年戦役要録』と円形小型手彩色銅版画六枚 (両面一二図) を収めた Schraubmedaille (ネジ蓋式メダル) をセットにした記念小箱を所蔵していることが分かり、店主の Laurens Hessink 氏から、その書誌情報と写真データの提供を受けた。それによると、解説冊子の寸法は七・七×五・二cm、グリーンを表紙は無題、本文は四八頁である。各手彩色銅版画には同じく円形同寸の紙片が付属しており、ドイツ語説明文が刻版されているという。

さらに調査を進めると、この Forum 在庫品は二〇一〇年一月二五日、オランダ、ハールレムの Bubb Kuiper オークションで落札されていた。そのオークションカタログの記載 (Lot 4430) によると、円形彩色銅版画一二図 (直径四・二cm) はゲオルグ・アダム (Georg Adam, 1784-1823) の印刷になるという。1〜12の一連番号のある一二図と同数同形の説明文入り紙片からなり、銀色のメダル型の容器 (直径五cm、厚さ六mm) に入っている。

容器の底には、浮き彫りのゲルマニア女神像の回りに「Schoen wie die deutsche Eichegrün meines Volkes Glück」(我が国民の幸福はドイツのオークの緑の如くくまなくわしに)の刻文が、蓋にはオーストリア国王フランツ一世 (Franz I Kai. v. Oester.)、ロシア皇帝アレクサンダー一世 (Alexander I Kai. v. Russland)、プロシヤ国王フリードリヒ・ヴィルヘルム三世 (Fr. Wilh. III Kö. v. Preussen) の肖像が浮き彫りになり、「Stettner. fec. Nlg.」(ニュルンベルク、シュテットナー作)との銘があるという。

銅版図一二図は以下のように、一八一四年二月～三月の戦闘図一一図と三月三十一日のパリ入城図からなっていると(註12)う。

1. "Die Schlacht bei Brienne, am 1.Feber 1814"
2. "Die Schlacht bei Chateau-Thierry, am 14 Feber 1814"
3. "Die Schlacht bei Montereau, am 18.Feber 1814"
4. "Die Belagerung von Troyes, im Feber 1814"
5. "Die Schlacht bei Bar zur Aube, am 27.Feber 1814"
6. "Die Schlacht bei Laon, am 9.März 1814"
7. "Die Schlacht bei Rheims, im März 1814"
8. "Die Schlacht bei Grand-Torci, am 20.März 1814"

9. "Die Schlacht bei Arcis sur Aube, am 21.März 1814"
10. "Die Schlacht bei Fere-Champenoise, am 25.März 1814"
11. "Die Schlacht vor Paris, am 30.März 1814"
12. "Der Einzug in Paris, am 31.März 1814"

神田佐野文庫新収品

Forum 書店本は右に見たように、蘭文解説冊子『一八一五年戦役要録』とドイツ語版の一八一四年戦役銅版図六枚一二図からなっている。また、ライデン市立美術館所蔵本は当面、利用できない。

そこで、『一八一五年戦役銅版図』七枚(両面印刷)一四図と蘭文解説冊子の、入手可能なセットを古書市場で探索したところ、アメリカの FireFox 書店の在庫品が、製作出版当時の原状を保つ優品であることが分かった。関係者のご努力により、このたび、幸いにも神田佐野文庫の所蔵となった。その書誌を写真(図2)とともに示そう。

書物型の収納箱は縦九一mm、横六八mm。表紙と裏表紙を左右に開けると、箱の表紙の見返しに解説冊子の裏表紙が糊付けされている。冊子の寸法は縦七八mm、横五八mm。その薄緑色の表紙は無題。冊子の見返しは白紙。標題紙もハーフタイトルページもなく、本文は四八頁である。

箱の表紙と裏表紙(図3)の彩色銅版図二種(同盟軍兵士のナポレオン鼠退治図とフランス軍退却図)はワイマールの Hertogin Anna Amalia Bibliothek 所蔵本の記載が全く当てはまる。

箱の裏表紙の見返しには、赤いリボンで繫いだ円形銅版手彩色図七枚を折り畳んで収納するネジ蓋式メダルの底(図4)がしっかりと嵌め込まれている。底の裏側を見ることができ、裏側には Hertogin Anna Amalia Bibliothek 所蔵品に見られる「EURE THATEN BEWUNDERN MILLIONEN」(前出)の刻文があるはずである。



図2 一八一五年戦役銅版図一式
神田佐野文庫蔵
©Kanda Sano Library, KUIS.



図3 書物型箱 表紙(右)と裏表紙(左)
©Kanda Sano Library, KUIS.



図5 メダルの蓋裏
©Kanda Sano Library, KUIS.

Goude Vrede
houd op onze vloeren
en verniel van het Oorlog
de vreeslyk Spoeren[sic: Spooren].
O in dyne mild Zonschyn
gaders[sic: gadert] vrolyk de Zaaiman
Zyne Garven.



図4 メダルの底
©Kanda Sano Library, KUIS.

Dank U Helden!
Gy kampd 't met hooge Sterkheid
voor de heilige Regt van de Volkeren,
And[sic] Uwe Stoute daaden
Zal bewonderen de toekomende
geslagt
van de Menschen.

メダルの底には「Dank U Helden」の詩句を印刷した紙片が貼り付けられている。円形の縁の一部に銅版図七枚を繋いでいたリボンの先端が僅かに残っている。ライデン市立美術館所蔵品は銅版図七枚からリボンが失われているが、本品は銅版図を繋ぐリボンが完全に残っており、Leporello（蛇腹式折り本）の原状を彷彿とさせる。

錫製メダルの蓋は周縁にネジが切られており、表面はライデン市美術館蔵品と同じく、豊饒の女神が浮き彫りにされ、周囲に周囲に「HEIL DEM FRIEDEN ER SEGNET REICH DIE ERDE」(前出)のドイツ語が配され、「T. Stettner fec.」の銘を確認できる(図6)。



図6 1815年戦役銅版図入りメダルの表
©Kanda Sano Library, KUIS.

円形銅版図の版面の直径は四二mm、紙片の直径は四五mm。紙片の天と版面(表裏両面)の間に、1〜14の番号が付けられているが、円形に切り取る際に失われたものもある。メダルの底の直径は四八mm、詩句紙片の直径は三五mmである。

解説冊子の本文は、毎ページ二行。ほぼ毎ページに誤植がある。文章も整っておらず段落もない。粗雑な校正で発行を急いだプロパガンダ文書であることが歴然としている。例

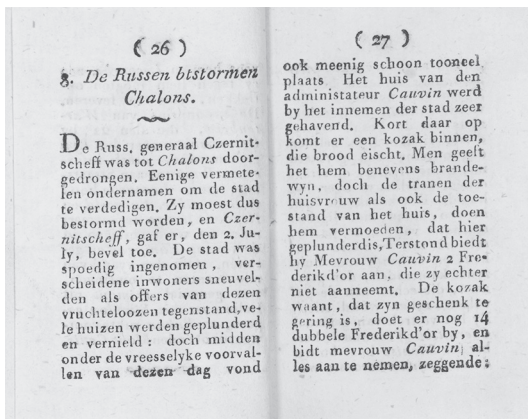


図7 『一八一五年戦役要録』 第8章
©Kanda Sano Library, KUIS.

えは、第8章(図7)は、章題中の *hirstormen* [sic: *bestormen*]、p. 27 の *administrateur* [sic: *administrateur*]、*geplunderd*、*Terstond* [sic: *geplunderd is. Terstond*] がすくく目に入る。人名・地名はイタリック表記を採用しているが不統一である。*Puyys* [sic: *Parys*] (p. 33)、『*Gorgan* [sic: *Gourgand* (p. 35)』などの酷い誤植もある。

本品はリボンで繋がれた円形銅版手彩色図七枚とは別に、系統の異なる円形銅版彩色図が一枚(両面印刷)、関連付属資料として添えられている(図8、図9)。紙片の直径が四三mm、銅版図版面の直径が四一mmと幾分小型であるが、彫刻、彩色いずれも七枚シリーズと酷似している。調査の結果、先にみた *Bubb Kuyper* オークションカタログ (Lot 4430) 記載のドイツ語版一二図シリーズに含まれる二図、



図8 ドイツ語版銅版図6
©Kanda Sano Library, KUIS.



図9 ドイツ語版銅版図12
©Kanda Sano Library, KUIS.

「一八一四年三月九日、ランの戦闘」図
12. "Der Einzug in Paris, am 31. März 1814"

「一八一四年三月三十一日、パリ入城」図
であることが判明した。わずか一枚であるが、ナポレオン戦争に勝利した同盟国側で、オランダ語版に先行して流行した戦勝記念銅版図として貴重である。

高橋景保が青地林宗に訳させた桂川家所蔵「別勒阿利安設」の原典は、景保によれば、オランダの「世子奮戦図の週に掲鏤せしもの」であった。青地林宗の訳稿に転写された「贅語」、すなわちメダルの底と蓋裏に貼られたオランダ語詩句、とりわけ両詩句のタイトルの真上に刻まれた波形ダツシュに似た飾りは、メダル自体も桂川家所蔵であったことを推察させる。

神田佐野文庫新収の優品の高精細スキヤン画像をもとに、桂川家にあつたと推察される銅版図貼交に近い複製(図10)¹⁹⁾を、メダル、銅版図、解説冊子、いずれも原寸大に作成することができた。ただし、桂川家の貼交に本型収納箱はなかったようである。青地林宗はオランダ語の詩句を「贅語」として転写しているが、メダルに言及していない。これは、林宗が銅版図貼交から本文とメダルの詩句のみを抜き書きした写本を翻訳のために与えられ、銅版図の貼交を直接見ないまま、翻訳したためであろう。

桂川家の貼交は失われて伝わらないようであるが、以上の考察を終えたあとに、古河藩家老鷹見泉石旧蔵品として、蘭文冊子『一八一五年戦役要録』とメダル入り銅版図のセットが伝わることを知った。²⁰ 泉石旧蔵品と神田佐野文庫新収品との比較は今後に待ちたい。

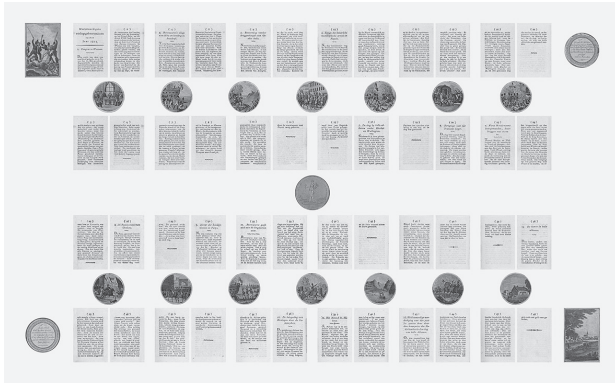


図 10 『一八一五年ナポレオン戦役彩色銅版画貼交』（複製）
©Kanda Sano Library, KUIS.

4 青地林宗訳「別勒阿利安設戦記」と原典の本文対照

【凡例】

1. 青地林宗訳「別勒阿利安設戦記」（国際日本文化研究センター所蔵）全一四章を翻刻し、原典 *Merkwaardigste oorlogsgebeurtenissen van het jaar 1815*.（『一八一五年戦役要録』神田佐野文庫所蔵）の本文翻刻を各章ごとに対照させ、原典の日本語訳および対応する銅版図の原寸大写真を付した。
2. 「別勒阿利安設戦記」草稿への朱筆の校訂（誤字訂正、異本との校合、渋川敬直筆か）は、「（勝）捷（ち）凱（か）旋（げん）」のように、削除部分を◇、訂正追加部分を波傍線で示した。また、適宜段落を設け、句読点を付け、濁点を加えた。
3. 原典の翻刻にあたっては、原文通りの綴り、句読点とし、ピリオドの脱落は、□で示した。著しい誤植は、「a.」の記号のもとに訂正した綴りを加えた。また、適宜段落を設け、原文の改行は無視した。
4. 原典の日本語訳は逐語訳とし、（ ）に説明を補った。また、「別勒阿利安設戦記」の翻刻の段落分けに対応させた。原文の固有名詞の日本語表記は現用の原綴りに基づいて表記したあとに、（ ）内に現用の原綴りを示した。

第一勿能の会

千八百十四年^一五月三十日、同盟の諸国の軍既にポナ
 パルテを把理斯に討て之に（勝）捷ち凱旋し、彼を執てエル
 バ島^{意大}に放ち、ローデウエーキ第十八世王を再その国王に
 定め、諸国始て払郎察と和睦し、諸国の軍士各本国に帰り、
 万民安堵の思をなせり。

さて此年秋、同盟の諸王侯勿能に会集して尚和平の盟約を
 議定すべしとて、第九月二十五日にハ魯西亜帝、李漏生王已
 に勿能に入來り、其衆一万に余り旅舎に溢れ、野陳を張て之
 に舍る。又ベイエレンの女王、ウラルデンベルク、第那瑪尔
 加等の王侯も來る「ママ」会し、第十月一日已に諸国の執事
 集りて評議はじまりける。

元此会議ハ歐羅巴中にか、はる大事なれば、数月を経るに
 非レバ議定すべしとハ思はざる所に、卒にポナパルテ彼配所
 を遁れ出て、兵を募りて把理斯を襲ふの風聞ありて、会議ハ
 中ごろに廢し、同盟の諸国再軍を引て、彼敵を討べしとて陣
 鐘を打て此会議ハ後日に延られけり。

Merkwaardigste oorlogsgebeurtenissen van het Jaar 1815.

1. *Congres te Weenen.*

Dee[sic] vrede van 1814 was met bloed gekocht en te *Parys* den 30. Mei geteekend. Zegeprelende keerden de legers der bondgenooten naar hun vaderland terug; de volken begonnen weder vryer te ademen; want *Buonaparte*, der verwoester der Landen, bevond zich als banneling, op het Eiland *Elba*, en Lodewyk XVIII. had den troon zynen vaders weder beklommen en daar door *Frankryk* met *Europa* verzoend.

In *Weenen* zou een *Congres*, van alle Europeesche Mogendheden, plaats vinden, om den vrede nog meer te bevestigen en de belangen van alle te behartigen, waar by de vorsten zelve tegenwoordig zyn zouden, deze statige verzameling kwam in den helfst van 1814 by een. De keizer van *Rusland* en de koning van *Pruissen* hielden hunnen intogt in *Weenen* op den 25. Sept. de verzamelde menigte was op dezen dag zoo groot, dat 10, 000 menschen niet onder dak konden komen, maar den nacht onder den blooten hemel moesten doorbrengen, ook de koningen van *Beyeren*, *Wurtenberg* en *Denemarken* kwamen geduren de[sic] deze dagen te *Weenen*, en het aantal der Vorsten en aanzienlyke Gasten vermeerderde dagelyk.

Den I. Nov. begonnen de gevolmagtigde Ministers, die den vrede van *Parys* geteekend hadden, hunne volmagten uit te wisselen en het *Congres* werd geopend, deze vreedzame raadpleging over elkanders belangen was instusschen geenszins het werk van weinige Maanden. Ieder moest voldaan zyn. Juist stond alles voleindigd te worden, toen *Buonaparte's* vlugt van *Elba* en zyn vyandelyk inval in *Frankeryk* de onderhandelingen afbrak. De vereenige pogingen der Vorsten strekten nu, om den eeuwigen vyand des vredens[sic] benevens zyne aanhangers te vernielen. De stormklok des oorlogs werd getrokken, en het werk des vredes werd voor kalmer dagen gespaard.

一八一五年戦役要録

1. ウィーン会議

一八一五年の和平は血であがなわれ、五月三〇日パリ条約が結ばれた。同盟諸国の軍隊はそれぞれの祖国に凱旋した。諸国民は自由の息吹を取り戻した。なぜならば、諸国の壊乱者ボナパルトはエルバ島に流刑の身となり、ルイ一八世は再び父祖の王座に就き、それによってフランスをしてヨーロッパと和解させたからである。

ウィーンでは全欧列強会議が開かれることとなった。各君主自らが出席し、和平をさらに強固なものとし、各国の権益を強化するためである。この華々しい会議は一八一四年秋に催された。ロシア皇帝とプロイセン国王は九月二五日にウィーンに入城した。この日、参加者の数は実に一万人の多数に達し、一堂に会することができず、夜は野営しなければならなかった。バイエルン、ヴェルテンベルク、デンマークの諸王はこの数日間にウィーンに到着し、君主や高貴なる賓客の数は日に日に増加した。

一月一日、パリ平和条約に署名した全権公使が各自の全権委任状の交換を始め、会議が開かれた。相互の権益に関するこの平和的協議は、この間、とても幾月かですむ仕事ではなかった。全員が満足する必要があったのである。まさに、

万事終了しようとしていたとき、ボナパルトのエルバ島脱出とフランス侵攻が交渉を頓挫させた。君主たちは平和の永遠の敵とその追従者たちとともに殲滅しようとして一致団結し、今やその試みが広がっている。戦争の早鐘が引き鳴らされ、講和の作業は、より静穏な日々まで延期されたのである。



©Kanda Sano Library, KUIS.

第二ボナパルテエルバ島を出払郎察に向

同盟の諸王侯ハ會議して天下万民の治安を計るに引かえ、ボナパルテはエルバ島にて新に暴虐の企を起し、私にエルバ島を出て把理斯に襲入の沙汰を聞く人々、実にその悪虐を驚嘆せざるハなし。かくて又天下和平の日は雲に掩はれ、再び危懼の世の中となりぬ。

さて、千八百十五年^{光緒十一年}二月廿六日の夜九時に、ボナパルテは舟を装ひ、其与党の払郎察、波羅泥亞、^{コルシカ}克爾西草^カに出る兵卒千許を率て、ポルトヘラヨより舟を出し払郎察の南辺カン子スに着岸し、翌朝進てヂンメブレに至るに、払郎察の反賊ラベドイエレ其部属を率て彼に属す。此より直にリランに趣くに其党類已に九万より十万に及び、子イ等の悪徒皆彼に従ひ、第三月二十日の夕八時に把理斯に至る。其途中人々をして唱へしめけるハ、此王再び国に入て三色の旗を建て、新に富貴を得て更に三十五年の榮華を極むべきとぞ。

さて、ローデウエイキ王ハ把理斯に在て自ら守んと心を碎き、ボナパルテの罪惡、その党類の不法の罪を国人に説聞して、兵卒を集め彼を防んと欲すれども、勢弱く却て其部下の兵も王を棄て遁れ去けれバ、王ハ詮なく十九日の夜、把理斯の王城を棄てケントに遁れ行たり。勿能にハ第三月十三日始て此乱を告来りけれバ、同盟の王侯直にボナパルテが信義を捨て人民を殘害する罪狀を挙て国人に触れ、天下治安を致す

2. Buonaparte's vlugt van Elba en landing in Frankryk.

Terwyl het Congres het heil van Millioenen overwoog [sic: overwoog], peinsde Buonaparte op Elba op nieuwe verwoestingen. Schrik overviel de volken, toen men de tyding van zyne vlugt en zynen inval in Frankryk vernam. De zon des vredes verborg zich weder achter vreesseelyke onweerwolken.

Buonaparte zeilden den 26. Febr. 1815 des avonds ten 9 ure van Porto Ferrajo af, verzelnd van eenige andere vaartuigen met duizend Fransche, Poolsche en Corsikaansche Soldaten. De schepen ankerde den 1. Maart by Cannes in het zuidelyke Frankryk en de troepen kwamen aan Land. Den anderen morgen plaatste Buonaparte zich aan derzelve hoofd, trok naar Grenoble, waar de overste Labedoyere het eerste met zyn regiment tot hem overging, en van daar regtstreeks naar Lyon. Hier was zyne magt op den 10. Maart reeds tot 9—10,000 man aangegroeid, waar mede hy, versterkt door Ney, en andere verraders, naar Parys toog, en er den 20. Maart, des avonds ten 8 ure, aankwam. Onderweg liet Buonaparte oproepingen aan de Fransche armee en de Franschen uitstrooien, om de drie kleurige kokarde weder op te zetten, de adelaars op nieuw te planten en hunne 25 Jaarige vryheid te handhaven.

Koning Lodewyk had alles gedaan, om zich op den troon staande te houden. Hy had Buonaparte voor verrader en rebel verklaard, en de kamers te Parys by een geroepen. Vergefs! Alle troepen vielen van hem af, en hy moest Parys in den nacht, van den 19. op den 20. Maart verlaten. Hy trok naar Gent, en vestigde daar zyne residentie. Nauwlyks was de tyding van Buonapart's inval in Frankryk te Weenen gekomen, of de bondgenooten verklaarden op den 13. Maart, dat Buonaparte zich van de burgerlyk en maatschappelyke betrekkingen losgemaakt, en zich, als vyand en rustverstoorder [sic] wereld, aan openlyke Straf blootgesteld had. Zy verklaarden tevens, den algemeenen vrede te zullen beschermen, en gaven bevel tot den afmarsch hunner Troepen naar Frankryk.

為に、諸軍一同速に払郎察に馳向て兇賊を退治すべきを命じたり。

2. ボナパルトのエルバ島脱出とフランス上陸

会議が万民の救済を熟議している間に、ボナパルトはエルバ島で新たな暴虐を企んでいた。彼の脱出とフランス侵攻の報を受けるや、戦慄が諸国民を襲った。平和の太陽は恐ろしい荒天の雲間に隠れた。

一八一五年二月二十六日夜九時、ボナパルトはフランス人、ポーランド人、コルシカ人からなる千人の兵士を乗せた他の船とともに、ポルト・フェラーヨから出帆した。三月一日、諸船は南フランスのカンヌに投錨し、部隊が上陸した。その後、ボナパルトは毎朝先頭に立ってグルノーブルに向かい、そこで司令官ラ・ベドワエール (La Bédouère) が、指揮下の連隊とともに真っ先に彼に付くや、直ちにリヨンに進進した。この地点で、三月一〇日、その戦力はすでに九千から一万人に増大していた。彼はこの軍勢を率い、ネーその他裏切り者の増援を得て、パリへ出発し、三月二〇日夕方八時に到着した。途中、ボナパルトはフランス軍とフランス国民に対して、三色帽章を再び付け、鷲の標章を新たに立て、二五年来の自由を守るように、広く呼び掛けさせた。

ルイ王は策の限りを尽くして王位に居続けようとした。ボ



©Kanda Sano Library, KUIS.

ナパルトを裏切り者、反逆者と宣言して、パリで議會を召集したが、無駄骨だった。全軍が王から離反したため、三月一九日から二〇日の夜にパリを退去せねばならなかった。王はヘントに向かい、そこに居を定めた。ボナパルトのフランス侵攻の報がウィーンに達するや、同盟諸国は三月一三日、ボナパルトは市民的社会的諸関係から放逐され、敵として、世界の安寧の壊乱者として、その身に公開処刑の宣告を受けると宣言した。同時にまた、万国の平和を守護すると宣言し、諸国軍のフランスへの進軍を命じたのである。

第三オクシヨベロ合戦

ボナバルテが再払郎察王位に復ると聞えければ、那波里王ミユラトは彼が姉婿なれば直に貪利の企を起し、意太里亜の諸地を掠取んとて部下の兵八万を擁し、不意に羅馬所屬都斯加能^{トスカリーナ}所屬の地に乱入し、其土人を挑撲し、己に与する者ハ国法を離れ自由の榮華を得せしむべしと云ハせ、第四月三日己にボログナの辺に至る。

さて、此手の討手として独逸都のバロン・ビアンシイ、兵を総て之に向ひ戦ひけるが、ミユラトが勢に敵し難く、ポー河の辺に退きし故に那波里の兵ハヘラヨを過てオクシヨベロ橋頭に至る。

此時ビアンシイは加勢の兵を得てミユラトと戦ひ之を破り、遂に威を奮て頻りに戦ひ、第五月二日朝より夜に至りて彼を追ひ払ひしに、三日朝ミユラト又寄来りしを遂に大に之を打て、彼が兵二千を俘にし、煩砲数多を奪ひ、ミユラト敗走して那波里に引き返したり。

3. Bestorming van het bruggenhoofd van Occhio bello.

Nauwelyks had *Buonaparte* den wankelenden troon weder beklommen, of zyn zwager *Murat*, die nog koning van *Napels* was zocht te zynen voordeele van Italië iets uit te werken. Hy brak met een leger van 80,000 man op, trok door de Roomsche en Toskaansche Landen, en begon, zonder eenige oorlogsverklaring, de vyandelykheden den 3. April in den omtrek van *Bologna*, na dat hy reeds voor den 20. Maart de Italianen had aangevuurd, om zich onafhankelyk en Italië vry te maken.

De oostenryksche troepen onder bevel van den Baron *Bianchi*, die in het eerst te zwak waren tegen de overmagt van *Murat*, trokken na eenige gevechten tot aan de *Po* terug. Reeds werd *Ferraio* [sic: *Ferrara*] door de Napolitanen berend en het bruggenhoofd van *Occhio bello* angetast, doch hier ging hunne gelukster onder, zy werden met een veel beteekenend verlies op den 8 en 9 terug geslagen en tot den terug togt gedwongen[.]

Bianchi, van alle kanten versterkt, bereikte en omsingelde door ongemeen snelle en uitmuntend berekende marschen de Napolitanen by *Volentino*[sic: *Tolentino*], en hier volgde den 2. en 3. Mei de grootste slag in dezen veldtogt. Het gevecht was reeds den 2. Mei, des morgens, algemeen en duurde tot in den nacht. De aanvallen des vyands, die door de oosteryksche positie poogde te breken, waren hevig, maar zonder gevolg. Den 3. voerde *Murat* zyne Armee op nieuw in het gevecht, maar werd ondanks alle inspaningen geslagen en met verlies van 2000 gevangenen en verscheidene kanonnen onophoudelyk door de overwinnaars naar *Napels* terug gedreven.

3. オッキオベッロ橋頭堡の攻撃

ポナバルトが揺れる王座に復位するや、まだナポリ王であった義弟ミュラは自国イタリアのために事を起こすように求められた。彼は八万の軍隊とともに撤収し、ローマとトスカナの各地を通り、四月三日、ポローニャ周辺で宣戦布告なく、戦闘を開始した。それ以前、すでに三月二〇日までに、彼は独立してイタリアを解放するよう、イタリア人を駆り立てていたのである。

ビアンキ男爵麾下のオーストリア軍は、当初ミュラの優勢に対してあまりに弱体で、数度の衝突のあと、ポー河に退却した。フェッラーラはすでにナポリ軍に包囲され、オッキオベッロ橋頭堡が攻撃にさらされていたが、彼ら（ナポリ軍）の希望の星は沈み、八日と九日の反撃で甚大な損失を蒙ったため、退却を余儀なくされた。

ビアンキは四方から援軍を得て到達し、非常に早く、実に周到な進軍によって、トレンティーノでナポリ軍を包囲した。そして、この地で五月二日と三日、この野戦で最大の戦闘が行われた。衝突は五月二日の朝、すでに全面化し、夜まで続いた。オーストリア陣地を貫通しようと試みた敵の攻撃は激しかったが、成果はなかった。三日になると、ミュラは再び自軍を戦闘に投入したが、奮闘むなしく敗れ、二千人を捕虜に奪われた。そして勝利軍の手で、色々な大砲が絶え間

なくナポリに送り返されたのだった。



©Kanda Sano Library, KUIS.

第四 独逸都勢那波里に入

トレンチノの会戦をいふに独逸都の軍勝利を得て、大将ピアンシイ進てカプエアに至りければ、那波里の大臣デユカデガ口来て和を請けれどもピアンシイ肯ぜず。ミラトと和を構ず義なしとて彼を返しければ、又彼総督コレタ那波里の兵を収め降参し、那波里城ハ独逸都方のヘルヂナント第四世王に属すべきを約す。

然るに、那波里府に内乱起りて、ガラーフ・子イペイルグ其部下を率て之を制するに鎮ること能はず。終に独逸都の兵を以て之を平定す。

此日総兵ピアンシイは齊西里亜王子レラポルドを伴ひ、兵二万を以て那波里に入、ミュラトハ前已に払郎察に走り、其婦人ハ諸厄利亜の船にてテリエストに送り遣りぬ。爾後ミュラト私に克コルシカ而西革カに抛らんとし、事あらハれて執とらはれ、ヘルヂナント王命を以て之を斬る。

4. Intogt der kerzerlyke oostenryksche armee in Napels.

Na den beslissenden slag by *Tolentino* was de marsch der oostenrykers in der daad een zegepralende togt. By de aankomst van den veldmaarschalk *Bianchi* voor *Capua* verscheen de Napol. minister *Duca de Gallo* met voorstellen by de voorposten, doch ontving ten antwoord, dat men met *Murat* niet wilde onderhandelen. Nu werd er met den general *Coletta* eene overeenkomst gesloten, waarby de *Napol.* armee zich op discretie overgeven en *Napels* door de oostenrykers in naam van koning *Ferdinand IV.* bezet worden zou.

Daar er intusschen in *Napels* oproer was uitgeborsten, ontving graaf *Neipperg* bevel, om er met eenige troepen heen te spoeden, en deze kwam er aan toen het oproer op het hoogste was gestegen. De oostenrykers stilden dit echter, en den zelfden dag hield de veldmaarschalk *Bianchi*, verzeld van prins *Leopold* van sicilië[sic], zynen intogt in *Napels* aan het hoofd van 20,000 man.

Murat was reeds naar Frankryk gevlugt en zyne vrouw werd door een Engelsch schip naar *Triëst* gebragt. In het vervolg van tyd beproefde hy eene landing op *Corsika*: doch al spoedig werd hy gevangen en op bevel van koning *Ferdinand* doodgeschoten.

4. オーストリア皇帝軍のナポリ入城

トレンティーノの決戦のあと、オーストリア軍の行進はまさに勝利の行軍だった。ビアンキ元帥がカプアの手前に到着すると、ナポリ王国首相デ・ガッロ伯爵が現れ、前哨戦が起きた。しかし、(国王) ミュラとは交渉するつもりはないとの返事を公爵は受け取った。そこで、コレッタ大将との間で協約が結ばれた。それはナポリ軍は密かに降伏し、ナポリは国王フェルディナンドIV世の名においてオーストリア軍の占領を受ける、というものだった。

その間にナポリで反乱が勃発したため、ナイベルク伯爵が数部隊を引き連れ急行するように命令を受けた。到着した時はまさに反乱が頂点に達していた。しかし、オーストリア軍はこれを鎮圧した。

さらに同日中にビアンキ元帥がシシリアのレオポルド公を伴い、二万の兵の先頭に立ってナポリに入城した。ミュラはすでにフランスに向けて逃亡しており、その妻は英船でトリエステへ移送された。時を経て、彼はコルシカへの上陸を試みたが、すぐさま捕らえられ、フェルディナンド国王の命令で銃殺された。



©Kanda Sano Library, KUIS.

第五ベッレアツリアンセにブリユセル ウェリントン
トンの勇戦

ボナバルテハ把理斯に入て軍備を整へ、兵卒を四境に出し
守らしむ。アンゴウレメのヘルトフは此時払郎察国南辺の人
民を以てボナバルテを防んと欲すれども、彼が勢強きを以て
避て舟にてセツトに退去す。

かくてボナバルテは、自ら兵をマイの野に集めて点検する
に、一万八千より二万許ハ已に諸方に遣りけれども、残る所
訓練の強兵四五万あれば、第六月十二日自ら其軍を総て和蘭
国境に向ひ、其所に在李漏生、諸厄利亞の軍に敵せんとし、
十四日其地に着し、十五日サムブレ河をカルレロイより渡り
ければ、李漏生方に其聞へありてブリユセル及ウエリントン
其軍を（まと）進めたるに、十〇日払郎察の歩十二万、騎
二万を張て、僅なる李漏生方に突懸りける故に、李漏生の
兵、力を奮て決戦せしが、払郎察方に利多くブリランウエ
キのヘルトフ爰に戦死し、大将ブリユセルも馬より落て已に
危きを、辛ふじて救ひ去たり。かくて十七日も戦止す。

十八日朝十一時よりベレアリアンセにて戦ひたるが、爰に
は諸厄利亞の一手にて決戦して、夕第七時に至り（ま）未だ
勝負を決せざりに、ブリユセル再李漏生の兵を率て不意に
敵の背後より打出て、此戦遂に大勝利となる。

5. De slag by belle alliance onder Blucher en Wellington.

Gedurende al deze gebeurtenissen was *Buonaparte* te *Parys* niet werkeloos. Hy organiseerde zyne armee, en zond dezelve naar de grenzen. De Hertog van *Anglouleme* poogde in het zuidelyk Frankryk volk tegen den overweldigder op de been te brengen; maar hy moest voor de overmagt wyken en te *Cetto* Scheep gaan.

Er werd door *Buonaparte* eene volksvergadering in het veld van Mai byeen geroepen, en hy deed er, in tegenwoordigheid van 18 tot 20,000 afgevaardigden en 40 tot 50,000 soldaten, den Eed op de Constitutie. Spoedig daar op, den 12. Juny, begaf hy zich naar zyne armee, die op de Nederlandsche grenzen tegen het Pruisische en Engelsche leger overstond, kwam er den 14.] aan en begon de vyandelykheden op den 15. Op de tyding, dat *Buonaparte* de *Sambre* by *Charleroi* was overgetrokken, trokken *Blucher* en *Wellington* hunne magt zamen. Den 12[sic: 16] stiet de Fransche armee, 120,000 man infantery en 22. 000 kavallery sterk op de Pruisische, die onglyk zwakker was. Er ontstond een bloedig gevecht, dat meer ten voordeele der Franschen, dan der Pruisen, uitviel. Op dezen dag sneuvelde de hertog van *Brunswyk*. Ok[sic] *Blucher* was in groot gevaar; zyn paard viel, de vyanden snelden hem voorby, en hy werd met moeite gered. De 17. Juny werd met manoeuvreren doorgebracht.

Den 18. des morgens te 11 ure begon de slag by de hoeve *la belle alliance*. Het Engelsche leger was eerst alleen in den stryd en de slag woedde zonder beslissing tot 7 ure des avonds. Nu kwam *Blucher* met zyne Pruisen den vyanden plotseling in den rug, en de slag was gewonnen.

5. ブリュッヘル、ウエリントン指揮下のベル・アリアンス戦

ボナパルトはこれらの戦乱の間、パリで無為に過ごしていたわけではない。自軍を組織して国境方面へ派遣した。アングレーム侯爵は南フランスで侵略者に対して民衆を立ち上げさせようと試みたが、優勢な敵を前に避難し、セツト(Cette) 港から乗船した。

(ワートルローの) シャン・ド・メ (Champ de Mai) ではボナパルトが人民集会を召集し、一万八千から二万人の代表者と五万人の兵の前に、憲法への忠誠を宣誓した。これを終えるや、オランダ国境でプロイセン軍とイギリス軍に対峙していた自軍に向けて、六月一二日ただちに、発進。一四日に到着し、一五日に戦闘を開始した。ボナパルトがシャルルロア近くでサンブル河 (la Sambre) を渡った報を受けるや、ブリュッヘルとウエリントンは軍勢を共に進めた。一二日(ママ、一六日の誤り)、一二万の歩兵、二万二千の騎兵からなるフランス軍は、もともと弱体だったプロイセン軍に激突した。血戦が始まった。この戦いはプロイセン軍よりフランス軍が有利に終わった。この日、ブルンスヴィヒ侯爵が斃れた。ブリュッヘルも危機に瀕した。馬が倒れ、敵軍が間近まで突進してきた。やっとのことで救出された。六月一七日は展開行動に費やされた。



©Kanda Sano Library, KUIS.

一八日午前一一時、ラ・ベル・アリアンス農場近くで戦闘が始まった。当初はイギリス軍だけが参戦し、戦闘は夕方七時まで決着が付かないまま、猛烈を極めていた。そこへ、ブリュッヘルが麾下のプロイセン兵とともに、突然、敵の背後に現れ、戦闘は勝利に終わったのだった。

第六 払郎察兵の引口

此戰、味方ハ血に染、敵ハ殲滅せんごつとなりたるに、ボナバルテ猶殘兵を引て隊伍を乱さず退きけるが、幸瀧生の兵奮激して之を追打に由て、遂に彼が兵卒乱れ走り、其途に煩砲、裝薬車、乗車、諸兵具等を土地の見えざるばかり棄散したり。

ブリュセルハ此夜の月の明なるを幸とし、敵を村里より駆り出すべしと命じ、兵を進めてベナツペに入りしに、ボナバルテの乗車を奪ぬ。此時ボナバルテは帽を脱し劔を失ひ狼狽して遁れ去。ピュステロ名入辛ふじて彼に従ひ走りぬ。残る所の払郎察勢ハ僅に四万許にして、悉く城營の方に遁失せたり。此戰に味方に得たる煩砲三百門余あり。

此日ボナバルテの本陣ハベツレアツアンセと名く砦の高所に置たり。ホルスト・ブリュセルとウエルリントン、此夜の大戦の後相会し、互に勝利を賀してブリュセル云けるハ、此戰ハベレアリアンセの戦と名けて後までの記念にすべしとなん。

6. *Terugtocht van het Fransche Leger.*

De slag was voor de Bondgenooten bloedig, voor de Franschen vernielend. In het begin trokken zy nog met orde terug; doch toen de Pruisen al sterker op hen indrongen, sloeg alles op de vlugt in de uiterste verwarring. De wegen werden met geschut, kruidwagens, rytuigen en allerlei oorlogstuig bedekt.

Blucher maakte gebruik van den maneschyn, om den vyand [sic: vyand] uit alle dorpen te jagen. De Pruisen bestormden *Genappe* en veroverden er, onder andere *Buonaparte*'s koets, die hy zonder hoed en degen verlaten had, toen de Pruisen in *Genappe* binnendrongen. Rusteloos ging het vervolgen voort. Naauwelyks 40,000 Franschen reddeden zich achter hunne vestingen; meer dan 300 kanonnen vielen den overwinnaars in handen.

Op den dag des slags bevond *Buonaparte* zich in het midden der Fransche Positie op eene hoogte, waar eene hoeve, *la belle alliance* genoemd, ligt. Hier ontmoetten vorst *Blucher* en *Wellington* elkander den 18. na den gewonnen slag des nachts by toeval, en begroetten elkander als overwinnaars, en *Blucher* beval, dat de slag, ter herinnering, de slag van *belle Alliantie* zou genoemd worden.

6. フランス軍の退却

戦いは同盟軍にとって流血場であったが、フランス軍には壊滅的だった。当初は整然と退却していたが、プロイセン軍がさらに一層強烈な侵攻を加えるや、全軍が極度の混乱に陥り、潰走を始めた。道は銃砲、弾薬車、馬車、諸々の戦用品で覆われた。

ブリュッヘルは月明かりを利用して、敵兵を全村から狩り出した。プロイセン兵はジュナップを攻撃し、諸々獲得したなかでもボナパルトの四輪馬車は、プロイセン兵がジュナップに突入するや、帽子も剣も身につけず、乗り捨てたものだった。追撃は休み無く続けられた。自分の要塞内で投降したフランス兵はやつと四万だった。勝利側は三百門以上の大砲を手に入れた。

戦いの当日、ボナパルトはフランス軍陣地の中央にいた。その陣地はラ・ベル・アリアンスと呼ばれた農場のある丘の上にあった。一八日、ブリュッヘル公とウエリントン将軍は勝利の戦いのあと、夜間ここで偶然に出逢い、勝利者として互いに挨拶を交わした。そしてブリュッヘルは、この戦いは記念にラ・ベル・アリアンスの戦いと名付けられるべし、と命じたのだった。



©Kanda Sano Library, KUIS.

第七ホルスト、ヴレーデの兵サールゲミュンデンサールブリュケンを攻取

同盟の諸軍ハ各レイン河より払郎察に進ミ、ブリュセル及ウエルリングトンは払郎察の地境に軍す。爰にホルスト・ウレーデハ第六月廿四日サール河を越て彼孛漏生の軍と合し働んとするに、サールゲミュンデンの傍にて敵に逢て遂にはげしき戦となり、味方ハサール右浜橋頭に攻寄せんとし、敵ハサールブリュケンにて防ぎしが、督将ベツケルス已に進て前郭と橋とを攻取、敵を追て共に府中に押入たり。

又バイエレンの兵共、リユ子ヒツレ^{名地}を攻取りぬ。かくて廿八日ホルスト・ウレーデ本陣をナンセイの内に取て、メルテ及ムーセル河浜の敵を攻め、且ストラーツビュルクに在敵将ラツプが把理斯に返る路を絶、彼及敵将コウルベを打破んと備へたり。

然に又ウエルテンベルグの王子、廿二日にゲメルスハイムよりレイン河を渡し来り、ラツプをストラーツビュルクに攻囲ミ、コウルベをボウルリクブレ、ビュルクヘルド、子ウドルプの所々に打破り、彼をフニンゲン城に追入たり。其他の総兵ブリumontハ意太里亜よりシンブロンを越へ来り、ビュプナハモンテセニスを越へ来り、諸方より攻入んとす。

7. Vorst Wrede neemt Saargemunden, Saarbruggen met storm in.

Terwyl Blucher en Wellington van de noordzyde in Frankryk drongen, stelden zich de bondgenooten aan den Ryn ook in beweging. Vorst Wrede ontving bevel, om den 24. Juny over de Saar te trekken, ten einde de verbinding met de Pruisische armee te bewerken. By de stad Saargemunde onstond[sic: ontstond] een levendig tirailleurs-gevecht, en het bruggenhoofd op den regter oever der Saar moest met storm genomen worden. Even zoo veel tegenstand von men te Saarbruggen. General Bekkers liet de voorstad en de brug bestormen, en drong tegelyk met den vyand, in de stad.

Luneville werd door de Beyeren ingenomen. Den 28. Juny had Vorst Wrede zyn hoofdkwartier in Nancy, welke positie hy koos, om meester van de oevers der Meurthe en Moesel te blyven, en den generaal Rapp, die met een Corps Franschen by Straatsburg stond, den terugtogt op den grooten weg naar Parys af te snyden, en tevens hem en Lecourbe, zoo zy tegen hem mogten optrekken, slag te leveren.

De kroonprins van Wurtemberg, die den 22[.] by Gernersheim over den Ryn gegaan was, dreef intusschen Rapp tot aan Straatsburg terug. Lecourbe bood te Bourglibre, Burgfeld en Neudorp hevige tegenweer; maar hy werd geslagen in de vesting Huningen en gesloten. Om den vyand van alle Kanten te omringen, was general Frimont uit Italie over den Simplon gegaan, en Bubna rukte voorwaards over den Mont-Cenis.

7. ヴレーデ侯、ザールゲミュント、ザールブリュックを攻略

ブリュックヘルとウエリントンがフランスの北側から侵攻する間に、同盟軍はライン河沿いにも展開した。ヴレーデ侯はプロイセン軍との連携を図るため、六月二四日、ザール河を越える命令を受けた。ザールゲミュントの町で激しい狙撃戦が始まり、ザール河右岸の橋頭堡の攻略が必至となった。同様に、ザールブリュッケンでも強い抵抗に出逢った。ベッケルス大將が郊外と橋を攻撃させ、敵と一団となって市中に攻め込んだ。

リュネヴィルはバイエルン兵によって攻略された。六月二八日、ヴレーデ侯はその本営をナンシーに置いていた。侯がこの陣地を選んだのは、ムルト河とモゼル (Moselle) 河の岸沿いを制圧維持するとともに、フランス兵の一部隊とストラスブルク近くにいたラップ中將が街道を通ってパリへ退却するのを阻止し、合わせて、もし彼とルクルブが向かって来れば、両者に対して戦端を開くためであった。

二二日にゲルメルスハイム付近でライン河を渡っていたヴュルテンベルク皇太子は、その間にラップをストラスブルクまで押し返した。ルクルブはブルーリーブル、ビュルクフェルト、ノイドルプで激しく防戦したが、ユナング (Huningue) 要塞で敗れ、封鎖された。フリモント大將は敵

を四方八方から包囲するため、イタリアからシンブロン峠を越えた。ビュプナはモン・スニ峠を越えて前進した。



©Kanda Sano Library, KUIS.

第八魯西亞の軍カロンヌ府を襲ふ

第七月二日、魯西亞の総兵エセルニツエフは兵を督してカロンヌ府に入んとせしに、府人誤て此を敵とし防んと企ける故に、エセルニツエフ怒て兵に命じ、彼等無益の敵対なす懲しめに其人を殺し其家を壊て、とて兵を放て乱入せしに、其危懼の内にも、おかしとする事のありし。

府中にミニスタテウルカウヒンと云者ありて其家奇麗に見えけるが、一人のコサツケン魯西亜の驍將其家に蒸餅を求め飢を療せんとし入て之を請ふに、その家人蒸餅及火酒をも与えければ、コサツケン、其家婦の眼淚あり且家のありさまを見て、已に掠奪に逢し者ならんと憐を起し、フレデリキデラル實録二枚を出して其婦に与ふ。その婦敢て之を取らず。コサツケン、其甚だ少きを嫌ふて取らずと思ひ、又十四枚を出しあたへて云、貴婦是をおさめよ、アンキサンデル魯西亜の帝の名の兵ハ貨を惜まず、とて去りぬ。

又府中の老民ビルクテルといふ者、頭に劍を受けて血に染て途に倒れければ、一りのコサツケン之を過て忽ち馬より飛降り、己が襦袢を裂て其疵を繙縛しやりたり。但此老人ハ終に其疵にて死したり。

又総兵エセルニツエフ此所を去る時、郊外の一酒店の主ニカイセといふ者、総兵の過を伺ひ己が家の破壊されたるを歎きければ、エセルニツエフ云、是ハ我過に非ず、府人の無

8. De Russen bstormen[sic] Chalons.

De Russ, generaal Czernitscheff was tot *Chalons* doorgedrongen. Eenige vermetelen ondernamen om de stad te verdedigen. Zy moest dus bestormd worden, en *Czernitscheff*, gaf er, den 2. July, bevel toe. De stad was spoedig ingenomen, verscheidene inwoners sneuvelden als offers van dezen vruchtelozen tegenstand, vele huizen werden geplunderd en vernield: doch midden onder de vreeslyke voorvallen van dezen dag vond ook meenig schoon tooneel plaats.

Het huis van den administrateur[sic] *Cauvin* werd by het innemen der stad zeer gehavend. Kort daar op komt er een kozak binnen, die brood eischt. Men geeft het hem benevens brandewyn, doch de tranen der huisvrouw als ook de toestand van het huis, doen hem vermoeden, dat hier geplunderdis[sic], Terstond biedt hy Mevrouw *Cauvin* 2 Frederik d'or aan, die zy echter niet aanneemt. De kozak waant, dat zyn geschenk te gering is, doet er nog 14 dubbele Frederik d'or by, en bidt mevrouw *Cauvin* alles aan te nemen, zeggende: „ neem aan, mevrouw, *Alexanders* soldaten hebben geen geld noodig.” Mevrouw *Cauvin* nam echter niets en de kosak verwyderde zich.

Den zelfden dag ontving een grysaard met name *Richter*, op straat eenen sabelhouw over het hoofd. Een kosak die hem in zyn bloed ziet liggen, springt van zyn paard, scheurt zyn hemd in stukken, en verbindt met hulp zyner kameraden, den grysaard, die echter aan de gevolgen zyner wond stierf.

By het vertrek van generaal *Czernitscheff* toonde de herbergier *Nicaise* hem buiten de stad zyne verwoeste woning. De generaal zeide hem, dat dit zyne schuld niet was, maar een gevolg van den nuttelozen tegenstand. Evenwel gaf hy hem twaalf dukaten met de woorden: „ dit is alles, wat *Czernitscheff* voor u doen kan,” en reed weg.

益の敵対をなせしに因ると、而して自ら十二ジュカトンの^{貨名}を彼に与へ、是ハエセルニツエフが汝に致す志なり、とて去りたり。

8. ロシア軍、シャロンを攻撃

ロシアのチエルニシエフ大將はシャロンまで侵攻した。剛胆の者たちが町を防衛しようと企てた。攻撃は必須となり、チエルニシエフは七月二日、その命令を下した。町はたちまち攻略され、大勢の住民がこの無益な反抗の犠牲者として命を落とす、多くの家屋が掠奪され破壊された。

しかし、この日の恐ろしい出来事のさなか、美挙も沢山あった。行政官コヴァンの屋敷は町の攻略の際にひどく破壊されたが、その後程なく、一人のコサック兵が中に入り込みパンを要求した。彼はパンを火酒と一緒にもらったものの、奥方の涙と屋敷の惨状から、ここで掠奪があったと察しがついた。すぐさま彼はコヴァン夫人にフリードリヒドル金貨二枚を差し出した。しかし、夫人は受け取らなかった。コサック兵は贈り物が少な過ぎると思ひ、さらに大判フリードリヒドル金貨一四枚を加え、「お取り下さい、奥様。アレクサンダー（皇帝陛下）の兵士はお金を必要としません。」と言ひながら、コヴァン夫人に全部受け取って欲しいと頼んだ。しかし、コヴァン夫人は何も受け取らず、コサック兵は

立ち去った。

同じ日のこと、リヒターという名の老人が町なかで、頭部をサーベルで切りつけられた。彼が血まみれで横たわっているのを見つけた一人のコサック兵は馬から飛び降り、自分の肌着を引き裂いて切れを作り、同僚の手助けで、老人に繃帯を巻いた。しかし、老人は傷が長引いて死んだ。

チエルニシエフ大將が出発する際、宿の主人ニケーズは市外で自分の荒らされた家を将軍に見せた。将軍は主人に、これは自分のせいではなく、無益な抵抗の結果だ、と語った。しかし、主人にドウカート金貨一二枚を渡し、「シチエルニシエフが貴方にできるのは、これがすべてです。」と言ひ添えて、出発した。



©Kanda Sano Library, KUIS.

第九同盟の諸軍把理斯に入

ボナバルテはベレリアンセの敗績より六月廿一日把理斯に帰り至り、自ら位を退き其子を嗣として、廿四日把理斯を去りたり。

さてフリユセル及ウエリクトンハ勝カキに乗じ、直に兵を進め敵地の諸城を攻降し、第七月一日已に把理斯に入らんとす。爰にボナバルテの残党ダホウトなるは、兵を勸して三回イスセイ名地の味方の軍に突懸けれども、味方の兵之を打破りければ、ダホウト力屈して降参す。

かくて味方の軍兵五万を率て、第七月六日昼十時把理斯に入、同十八日ローデウエキ王も返り来り、二十日李漏生王、独逸都帝、魯西亞帝も共に營を把理斯の内に移しぬ。如此把理斯再味方に属しけれども、諸事のかた付と此国のバルレメントの政庁の名の興行するまで諸軍ハ留り守りたり。

9. Intogt der bondgenooten in Parys.

Na den verloren slag van *belle alliance* kwam *Buonaparte* den 21. Juny te *Parys* aan, deed nogmaals afstand van den troon, benoemde zynen zoon tot zynen opvolger en verliet *Parys* den 24.

Blucher en *Wellington* zetteden middeler wyl hunnen marsch voort, namen eenige vestingen in en verschenen in de eerste dagen van July voor *Parys*, waar de overblyfsels der Fransche armee zich onder *Davoust* hadden verzameld. Na een hevig gevecht by *Issy*, waar by de Franschen, die deze plaats drie malen wilden bestormen, telkens terug geslagen werden, verzocht *Davoust*, de vyandelykheden te staken, en er werd eene overeenkomst gesloten, volgens welke de bondgenooten hunnen intogt met 50,000 man op den 6. July, des voormiddags te 10 ure in *Parys* hielden-[sic]

Den 18. kwam koning *Lodewyk* weder in de hoosdstad[sic]. Den 20. verplaatsten de koning van *Pruissen* et de keizers van *Oostenryk* en *Rusland* hun hoosdkwartier[sic] naar *Parys*. Dus was te[sic: de] trotsche stsd[sic: stad] ten tweeden male in het bezit der bondgenooten gekomen; terwyl de troepen tot op eene nadere beslissing in verscheide departementen van *Frankryk* gekantonneerd werden.

9. 同盟軍のパリ入城

ベル・リアンスの敗戦のあと、ボナパルトは六月二一日、パリに到達した。とはいえ、帝位を放棄し、息子を後継者に任命して、二四日にパリを後にした。

ブリュッヘルとウエリントンはその間に進軍し、要塞数カ所を攻略して、七月始めにはパリの手前に現れた。パリではフランス軍の残存兵がダヴーの下に集まっていた。イッシー近傍では、フランス兵がこの地を三度攻撃してそのたびに撃退された。この激戦のあと、ダヴーは戦闘行為をやめるよう懇願し、協約が結ばれた。

それに従い、同盟軍は七月六日朝一〇時、五万の兵をもってパリに入城した。一八日、国王ルイが首都に戻った。二〇日、プロイセン国王、オーストリアとロシアの皇帝が本営をパリに移した。かくして、誇り高き都市はまたしても同盟軍の所有に帰したのである。一方、諸軍隊は爾後の決定がなされるまで、フランス諸県に宿営させられたのであった。



©Kanda Sano Library, KUIS.

第十ボナバルテ諸厄利亜人に投ず

ボナバルテハ把理斯を出て、第七月三日ボセホルトに至り、此より亜墨利加に往んと欲し、八日大船フレガトを装ひ之に乗り順風を待けるに、諸厄利亜の巡海の兵艦これを見つけて放さず。殊に月夜なれば、ボナバルテも夜にまぎれ遁れ〔ママ〕べきやうなく、十五日終に自ら小舟に乗りベルトランドサハレイラレマント等四十人許を従へ諸厄利亜人に身を投ず。

諸厄利亜人彼等を執へ、廿四日トルバリーに至る。其途中彼等の身の果をみると遠近群聚し來り觀る。さて同盟の王侯評議し、ボナバルテをバシントヘレナ島に流竄すべきに極り、船將コークビュルンの支配にてノルトフュンベルランド名前に乗せ送りぬ。

此と共に島に趣し者はベルトランド及其妻子、モントロシ及其妻子、ガラーフ、ラカサス、兵將ゴルガント及奴九人婢三人なり。嗚呼、万人を殘虐し万人に怒り罵られたる魁首たるボナバルテも、終にヘレナ島を以て結果の所とせり。

10. Buonaparte geeft zich aan de Engelschen over.

Buonaparte was van *Pyrus*[sic] naar *Rochefort* vertrokken, waar hy den 3. July aankwam, en van waar hy vermoedelyk naar *Amerika* wilde vlugten. Den 8 ging hy sloop op een Fransch fregat, en wachtte naar eenen gunstigen wind; doch hy kon weinig op eenen goeden uitschlag hopen, daar de Engelsche kruissers hem niet uit het oog lieten, en de heldere nachten zyne vlugt niet begunstigten. Hy gaf zich derhalven den 15. July aan de Engelschen over, en begaf zich aan boord van het schip *Bellerophon* met meer dan 40 Personen, *waaronder Bertrand, Savary, Lallemand* enz.

Den 24. July kwam hy voor *Torbay* aan; terwyl er uit alle streken van *Engeland* eenen menigte van nieuwsgierigen stroomde, om hem te zien. Daar de bondgenooten bepaald hadden, dat hy naar *S. Helena* zou gezonden worden, ging hy op het schip *Northumberland*, onder bevel van den admiraal *Cockburn*, over, waar mede hy alreede te *St. Helena* gekomen is in gezelschap van *Bertrand* met zyne vrouw en kinderen, graaf *Montholon* met vrouw en kind, graaf *Lascasas* [sic], generaal *Gorgand* [sic] en 9 mannelijke benevens 3 vrouwelyke bedienden. Daar kan hy nu dan een leven besluiten, dat door millioenen gevloekt wordt, en de oorzaak van den dood van millioenen geweest is.

10. ボナパルト、イギリス軍に降伏

ボナパルトはロシュフォールに向けてパリを出発し、七月三日に到着した。そこからアメリカへ逃亡しようとしたらしい。八日、彼は一隻のフランスのフリゲート艦に乗船し、順風を待った。しかし、良い結末はほとんど望めなかった。イギリスの巡洋艦が彼を見逃すことはなく、晴れた夜は逃亡の手助けにならなかったのである。そのため、彼は七月五日、イギリス軍に降伏し、ベルトラン、サヴァリー、ラルマン等、四〇名以上の幹部とともに、軍艦ベレロフォン号に搭乗した。

七月二四日、彼はトーベイ手前に達した。そこには彼を一目見ようと、大勢の物見高い見物人が、イギリス全土から押し寄せていた。同盟軍が彼をセント・ヘレナへ島送りにする決定を下していたので、彼はコックバーン元帥麾下の軍艦ノールサンバーランド号に乗り移った。

この船で、彼はベルトランとその妻、子どもたち、モンロン伯爵と妻子、ラス・カース (Las Cases) 伯爵、グルゴ (Gourgand) 少将、および九人の下僕、さらに三人の下女に伴われて、セント・ヘレナに早くも到着した。今や、彼は、何百万人もの罵詈雑言をあげ、何百万人もの死をもたらしした一生を、かの地で終えるのだ。



©Kanda Sano Library, KUIS.

第十一 独逸都の兵フニンゲン城を抜

フニンゲン城ハ敵將ボルバ子クレを主としたるが、寄手ハアールツヘルトフ・ヨハン君にて、第八月廿二日大砲を打懸攻けるに、城中より煩砲を放て防ぎけれども、味方を損ずるに至らず。昼後已に其城門及郭道を焼払ひ、廿二日の夜より廿三日に至り城の外なる砲台を奪へり。

廿三日廿四日昼夜大砲を放て焼たてけるに、城兵力屈し白旗を掲て降を乞ひ、ボルバ子クレ部卒千九百を引、兵を伏せて城を開け出けれバ、アールツヘルトフ降を受けて城に入。その民兵ハ各其郷里に返し、本兵をパロイレ河の後に遣りて平定す。

11. De belegering van Huningen door de Oostenrykers.

De aartshertog *Johann* bestuurde deze Belegering met de grootste onverschrokkenheid. In de vesting voerde de generaal *Barbanegre*[sic] het bevel. Het bombardement begon den 22 Augustus, en des namiddags was reeds eene poort der vesting benevens al het dakwerk vernield. *Barbanegre* liet *Bazel* met eenige bommen beschieten, die echter geene schaade te weeg bragten. In den nacht van den 22. tot 23. namen de Oostenrykers de uiterste battery in, en het vuur duurde den 23. en 24. voort.

Nu haalden de belegerden de witte vlag op, en er werd een wapenstillstand gesloten. Hierop kapituleerden *Barbanegre*, de Fransche bezetting, 1900 man sterk, trok uit de vesting, en leide het geweer neder. Te 10 ure hield de aartshertog zynen luister ryken intogt, en werd door de overheid plegtig onder de poort ontvangen. De Fransche nationale garden, die een gedeelte der bezetting uitmaakten, werden naar huis en de linie troepen achter de *Loire* gezonden.

11. オーストリア軍によるユナング包囲戦

ヨハン大公はこの包囲戦の策を大胆不敵に検討した。要塞の中ではバルバネーグル (Barbanègre) 少将が指揮を取っていた。砲撃は八月二二日に始まり、午後にはすでに要塞の一門が屋根根組みもろとも破壊された。バルバネーグルはバーゼル (Basel) に数発の砲弾を撃ち込ませたが、損害を与えないことはなかった。二二日から二三日にかけての夜、オーストリア軍は最後の砲台を奪取し、二三日と二四日、戦火が続いた。

すると籠城軍が白旗を掲げ、休戦締結となった。ここで、バルバネーグルは降伏し、千九百の兵からなるフランスの守備隊は要塞を出て、武器を放棄した。一〇時、大公は輝かしい入城を果たし、城門の下では市の幹部たちによって盛大に迎え入れられた。守備隊の一部をなしていたフランス国民軍 (の民兵たち) は故郷に、戦列歩兵はロワール河の背後に送られた。



©Kanda Sano Library, KUIS.

第十二シント、ヘレナ島

此島ハアトランチセ海^{海に深き島}の南辺に孤立する巖礁島にして、地下の火坑ありと見ゆ。島の長四ユール^{五里}幅三ユール^{四里}高峯多くデアナ峯ハ高二千六百九十尺に及ぶ。全嶋の平地僅に十二モルゲン^{二百モルゲン}に過ず。礁上に僅に土を敷、甚だ脆疎なれども能物を生長す。

田圃とする所七八千モルゲンのミにして、其余三万モルゲン許ハ不毛の礁石なり。其田圃ハ肥潤なれども鼠甚夥しく穀種を下すを妨ぐるが故に、土人唯牧畜果蔬を以て自ら養とす。野羊肉尤も美とし、又野獸禽鳥多くあり。但樹木に乏しとす。温泉數処有。時氣ハ良養清淨なりとす。

一府ヤメスストウン又ヤコブスタードと名く。ヤコブ谷といふ所に在。その所ハ島中の最広平地とすれども、僅に一条の街にして其家屋込合、街の両隅ハ房屋直に巖崖に迫り、雨時にハその崖^礁碎落て屋を破る事数々なり。

ヤコブスポクトと名く海湾あり。ホルトヤメスの砦を要害とす。海舶の碇泊の常所とせり。府と七十余の村落とを総て口數三千許とす。此島ハ千五百〇二年^{文德}波^武爾^虎杜^三瓦^三爾^三のヨハ^三ン^三ノ^三ハ^三初^三て^三見^三出^三し、其日のヘレナ^名の祭日なるを以て島の名とす。後、千六百年代に諸厄利亜人之を取る。

12. Het Eiland St. Helena.

St. Helena ligt in de zuidelyke atlantische zee, en bestaat uit eene rots, die eenzaam in zee staat. Dit Eiland, zichtbaar het gewrocht van onder aardse volkanen, is 4 ½ uur lang en iets meer dan drie uren breed, en bestaat uit verscheidene hooge bergen, die piek van Diana heeft eene hoogte van 2690 voeten. Er is op het gansche Eiland naauwelyks eene vlakke van 12 Engelsche morgen land.

De weenige [sic] aarde op de rots is log en ligt maar zeer vruchtbaar[,] 7 tot 8,000 morgen zyn bebouwd land, het overige gedeelte van het Eiland, omtrent 30,000 morgen, ligt braak; op den bebouwd grond groeit alles zeer welig, voor het overige is er gebrek aan hout; er zyn eenige bronnen, maar van weinige beteekenis, en het verbazend aantal van ratten verhindert het zaayen van koren, weshalve de inwoners zich met weiden, vruchten en moeskruiden vernoegen. De geiten leveren er altyd frisch vleesch. Er is veel wildbraad en gevogelte. Het klimaat is gezond, de lucht zuiver.

Het Eiland heeft slechts eene stad, *Jamestown*, Jacobs stad, genoemd, welke in het Jacobsdal ligt en uit eene enkele straat bestaat, die onregelmatig, maar net gebouwd is.[sic] Hoewel het Jacobsdal een der breedste is, is het evenwel zoo naauw, dat de ryen huizen aan elke zyde der straat, die parallel met de ryen heuvels loopen, zoo dicht by de heuvels staan, dat de stukken rots, die door den regen losgemaakt worden reeds meer dan eens door de daken der huizen sloegen.

De Jacobsbegt, de gewone ankerplaats wordt door het fort *James* bestreken. In de stad en meer dan 70 tuinen wonen omtrent 3000 inwoners. De portugees *Joh. van Nova* ontdekte dit Eiland 1502 op den dag van *St. Helena*, waar van het deszelfs naam ontving. De Engelschen namen het in 1600 in bezit.

12. セント・ヘレナ島

セント・ヘレナは南大西洋にあり、大洋中に孤立する岩山からなっている。この島の目にみえる部分は地下火山の産物であり、長さは四ユール（リーグ、里）半、幅は三ユール強。多くの高山からなっており、ダイアナ峰は二六九〇フート（フィート、呎）の高さがある。島全体で平地はかろうじて一二英モルゲン（エーカー、町）あるにすぎない。岩山の上のわずかな土壌は分厚く軽い、大変肥沃である。

七千から八千モルゲンが耕地であり、島の他の部分、約三万モルゲンは未開墾のままである。耕された大地はあらゆる何もかも大変豊かに生育し、他は樹木がない。数力所に泉が湧いているが、大した量ではない。驚くべき数の鼠が穀類の種まきを阻害している。そのため住民は牧草、果実、野菜だけで自足している。ここでは山羊が常に新鮮な肉をもたらしてくれる。獣肉と鶏肉は豊富にある。気候は体に良く、空気は清澄である。

島には町が一つしかなく、ジェイムスタウン、ヤコブの町と呼ばれている。この町はヤコブ谷にあり、一本の街路からなっている。街路は不規則ながら、奇麗に造られている。ヤコブ谷は一番広い谷のひとつであるが、それでも狭く、うち続く丘陵と並行して走る街路の両側の家並みは丘陵と間近に接するほどである。そのため、雨で緩くなった岩塊がすでに



©Kanda Sano Library, KUIS.

再三家々の屋根を突き破っていた。

普段の投錨地であるヤコブ湾をジェームズ要塞が見下ろしている。市内と七〇以上の農園に約三千人の住民が住んでいる。ポルトガル人ジョアン・ダ・ノーヴァ (João da Nova) がこの島を一五〇二年、セント・ヘレナ聖人の日に発見したことから、島はこれと同じ名を付けられたのである。イギリス人はこの島を一六〇〇年に領有した。

第十三和蘭の王子勇戦

第六月十八日ベレアリアンセの戦に和蘭の王子ハクワルト
レブラス一名ヒールスプロングと云所にて勇を奮て敵に当
り、諸軍を励まし、昔より伝ふる和蘭国の武威を耀せしハ、
初め王子自ら進て強く敵を打払ひしが、忽ち敵中に立込られ
甚だ危かりけるに、從騎之に衝入り力戦して之を救ふ。

其苦戦の中に流丸王子の左肩に当り、味方色を失ふべかり
しに、王子これに避(ママ)易せず、却て味方の勇氣激發し
て遂に敵を打払ひし故に、払郎察方にも和蘭人の勇威を感称
せしとぞ。此に由て王子の勇名高くあらハれ、其創もさわり
なく癒ければ、国民、王子の天の加護を得たるを嘆称す。

13. *Heldenmoedige verdediging van den post les quatre bras door den kroonprins der Nederlanden in den slag van belle Alliance.*

Op den vreeslyken dag van den 18. Juny stond de kroonprins der Nederlanden by de hoeve *quatre bras* of *viersprong* genoemd, en deed hier met de zynen wonderen van dapperheid. Alles werd er door zynen moed aangevuurd, om heldhaftig te stryden, en den ouden krygsroem van *Nederland* te handhaven. Door zyn vuur te ver gedreven bevond de Prins van *Oranje* zich eenige oogenblikken midden onder de vyanden; doch een bataillon schoot toe, en reddede den Held, aan wien[sic] aller harten gehecht waren, dien allen als eenen uitstekende aan voerder bewonderden.

Een snaphaan schot kwetste den *prins* in den linker schouder; doch verre er van daan, dat dit den moed zynere scharen zou verzwakt hebben, dreef het hen tot eene bloedige wraak, en de Franschen gevoelden, dat *Nederlands* heldenteelt nog niet uitgestorven was. De koningszoon, met roem bedekt, werd gelukkig hersteld, en wordt dankbaar bemind door de Nederlanders, die weten, dat hy zyn leven veil had voor hunne redding.

13. オランダ皇太子、ベル・アリアンスの戦いにおい

て、レ・カトル・ブラ陣地を英雄的に防衛

六月一八日、この恐るべき日に、オランダ皇太子はカトル・ブラまたはフィールス・ブロンクという名の農場のあたりにいた。そして、ここで部下と共に驚異の武勇を発揮した。誰もが彼の勇気に鼓舞されて勇敢に戦い、オランダの古き軍事的栄光を護持したのである。オラニエ公は烈火の激情に駆られ、ごく僅かの間、敵の真中に身を置いてしまった。しかし、一箇大隊が駆けつけ、英雄を救出した。誰もが彼に忠誠心を寄せ、誰もが彼を傑出した指導者として敬服していたのである。

歩兵銃の一撃が公の左肩を負傷させた。しかし、これは麾下の軍勢の勇気を挫くどころか、彼らを流血の怒りに駆り立てた。そして、フランス軍はオランダの英雄の子孫がまだ絶えていないことを思い知ったのである。皇太子は名声に包まれ、幸いにも治癒した。そして、オランダ国民から感謝を込めて愛されている。国民は皇太子が自分たちの救済のために命を賭したことを知っているのである。



©Kanda Sano Library, KUIS.

第十四ベレリアンセ府 此条誠に讀がたし故に略訳す
ベレリアンセ府ハ元世人のしらざる所なれども、此度歐
羅巴中を再治平に致せし大戦ありしに由て、此府の名終に不
朽にあらはるべし。

夫悪虐終に幸を得て、天日永世に暗からんとす。然ども英
雄ブリュセル及ウエルリングトンの二人相助て兇賊を打て、
再万民和平の勲を建しハ、正に此府と同じく不朽の名を伝
へ、人々をして天道善に帰するを鑑ミしらしむ。
是此記にあらハす所にして、衆官此を無備の宝とすべきも
のならん。

賛語あり略す 原本写書なれば讀かねたる所も多く

御座候 大概を訳草せしなり

文政丙戌七月 芳濤散人訳

14. *De hoeve la belle alliance.*

Deze hoeve, anders van weinig beteekenis, heeft eenen grooten naam gekregen door den vreesselyke slag, welke den vrede ten tweeden maal aan Europa hergaf.

Daar zag *Napoleon* de zon zyns geluks, zoo de menscheid hoopt, voor Eeuwig tanen; daar reikten de groote *Blucher*, en de vortreffelyke [sic] *Wellington* elkander broederlyk de hand; daar ontving van deze byeenkomst deze laatste, bloedige kamp met den dwingeland voor de rust en het heil der volken den eernaam van slag des schoonen verbonds. Dus zal deze hoeve in de gedenkschriften der menscheid en door het graveerstift vereeuwigd worden, en by haren naam zullen tyd genooten en naneven zich herinneren, welke groote dingen God gedaan heeft.

Als een voorwerp van waarde beschouwd wordende, dewyl zy gestadig eene der belangrykste gebeurtenissen herinnert, is er in der daad ook reeds veel geld voor geboden.

14. ベル・アリアンス農場

さもなくば見むきもされないこの農場が、ヨーロッパに再び平和をもたらした恐ろしい戦闘のおかげで、大いに有名になった。

ここで、ナポレオンは、万人の望んだように、その幸運の太陽が永久に陰りゆく姿を見たのだ。ここで、偉大なるブリュッヘルと異傑ウエリントンが互いに親愛の握手を交わしたのだ。ここで、両者の会見から、諸国民の平安と救済のための、暴君に対する最後の、そして流血の陣地は、麗しき同盟の戦いという榮譽ある名前を受け取ったのだ。したがって、この農場は人類の記念碑（的歴史書）にその名を刻まれ永遠に残るだろう。この名を聞けば、同時代の人々も後世の人々も、神が如何に偉大な御業をなし給うたか、を忘れることはないだろう。

農場は重大極まる出来事のひとつを絶えず想い起させる。そのため価値ある記念物と考えられており、実際すでに多大の資金が寄せられている。



©Kanda Sano Library, KUIS.

おわりに

幕府訳員青地林宗

蘭学者青地林宗は幕府天文方高橋景保から、オランダ語原文の写本をもとに「別勒阿利安設戦記」の翻訳を命ぜられ、文政九年七月に初稿を完成させた。青地は文政五年に幕府訳局すなわち蕃書和解御用の馬場佐十郎が死亡するとすぐに、その後任として杉田立卿とともに訳員に採用され、兩名で馬場訳・高橋校『遭厄日本紀事』（ゴロウニン『幽囚記』オランダ語版からの翻訳）を同年中に完成させた。「別勒阿利安設戦記」は、

「別埒阿利安設戦記」（青地・吉雄忠次郎訳・高橋校、文政九年七月）、

「輿地誌略」（ヒュブネル『ゼオガラヒー』六巻本からの抄訳、文政九年一八二六）

「輿地志」（同じくヒュブネル『ゼオガラヒー』六巻本からの抄訳、文政一〇年一八二七）、

「奉使日本紀行」（クルーゼンシュテルン『世界周航記』からの抄訳、青地訳・高橋校）

と続く、青地の一連の地理紀行翻訳書のなかに位置づけられる。いずれも高橋配下の和解御用としての訳業である。

桂川甫賢と青地林宗

本稿によって、「別勒阿利安設戦記」の原典『一八一五年戦役要録』の蘭文テキストは、桂川家所蔵の「一八一五年ナポレオン戦役彩色銅版図」貼交からの写本であったことを解明できた。しかし、桂川家がこの貼交を所蔵した経緯は不明である。

桂川甫賢所蔵のワートルロー戦闘図は、時期不明ながら、平戸藩主松浦静山が借用したことがあった。静山みずから編集した『新增書目』（松浦史料博物館所蔵）「外篇貳」 「史類地理之部蛮夷」部の「阿蘭人手授合戦真図 二枚 一幅」の項目を要約すれば、文政五年一二月下旬、参府した商館長ヤンコック・ブロンホフを宿に訪ねたとき、静山は「ワートルロート云地」の大戦図を二枚見せられた。一枚は「勇将ロルドウエルリングトン」が「敵ノ勇師ヲ破リシ体」を、もう一枚は「荷蘭ノ太子ウールレムゲルゲロテウエイキ」が「大ニ払郎察ノ強兵ヲ打破リ其身創ヲ被シ体」を描いたものであった。静山はこれを借写して「阿蘭人手授合戦真図 二枚一幅」に仕立てたという。²¹⁾

静山はこの記載の末尾に「又ソノ後桂川甫周ガ子甫賢ノ所蔵ノ書画ヲ見ル。是又カノ合戦ノ図ナリ。下ニ蛮字ノ記アリ。其事ヲ云フ。蛮制ノ真物ナリ。然レドモ図状コレト異ナリ。コノ図模写ヲ得ズ。一兩日ヲ留メテ即返ス。然レバコノ

大戦ノ図モ数本有ルニゾ」と追記している。静山が「ソノ後」見た甫賢所蔵の合戦図は高橋が借写し翻訳させた貼交そのものであったに違いない。高橋等の翻訳について言及がないところから、静山が借用したのは文政五年一二月下旬から文政九年七月の間ということになる。

今泉源吉（一九六八）は甫賢が「和漢蘭三州必真像」を所蔵しており、「諸名哲自画いくへも小幅にして」いたなかに「ボナハルテ」像があつたことから、甫賢はナポレオン戦争に従軍した商館長ストウルレルからナポレオンの「実話を聞いたことだろう」と想像する²²。一方、本草植物学に詳しく、商館長ドゥーフから *Botanicus* の名前をもらったほどの甫賢は、ストウルレルの江戸参府に随行した、蘭館医フォン・シーボルトと交流を深めた。また、阿蘭陀通詞吉雄忠次郎はシーボルト付きの通訳であつた。ストウルレル経由かシーボルト経由か、あるいは別のルートか。さらなる資料の出現を待つしかない。

桂川家当主、桂川甫賢は青地の訳した理学書『気海観瀾』（文政八年一八二五成稿、文政一〇年刊、原典 *Brys, Naturkundig schoolboek. Amsterdam, 1818.*）の序文（「文政十年丁亥秋十月」）において、友人青地の非凡な翻訳能力を讃えている。「訳し難きの書を訳して、人をして読み難からざるの書と為さしむるは、自ら難を知るの人に非ざれば、則

ち能くし難しと為す。我友青林宗は、能く其の難きを知りて能く之を訳する者なり。世に其の人あること難し。」²³（原漢文）と。「別勒阿利安設戦記」の翻訳事情には、青地と甫賢の親密な交友も考慮する必要があるだろう。

ナポレオン伝翻訳の困難

江戸時代最初のナポレオン伝「別勒阿利安設戦記」は原典が対ナポレオン戦争に勝利した同盟国側の戦勝記念メダル入り銅版図の解説冊子、しかも戦勝国オランダの青少年に向けたプロバガンダ文書であつた。そのため、高橋景保はナポレオン戦争を「近時揆乱反正」と捉え、解説冊子を銅版図「世子奮戦図」とともに、オランダ皇太子の「功烈を後世に輝さんと」するものと理解した。

しかし、このプロバガンダ文書に現れるナポレオン像、そして「別勒阿利安設」すなわちワテルローの意義付けを正確な翻訳で伝えることは、甫賢が高く評価した青地といえども、容易なことではなかった。

ウィーン会議の列強諸国は、一八一五年三月一三日、ナポレオン追放を次のように宣言した。

Les Puissances alliées déclarent en conséquence que
Napoleon Buonaparte s'est placé hors des relations

civiles et sociales, et que, comme ennemi et perturbateur du repos du monde, il s'est livré à la vindicte publique. (故に連合国は、ナポレオン・ボナパルトが市民的社会的諸関係の埒外に置かれたこと、そして彼は世界の安寧の敵、壊乱者として、公共的制裁に処せられたことを宣言する。)

『一八一五年戦役要録』第二章「ボナパルトのエルバ島脱出とフランス上陸」はこの宣言をほぼ正確に伝える。

de bondgenooten verklaarden op den 13. Maart, dat *Buonaparte* zich van de burgerlyk en maatschappelyke betrekkingen losgemaakt, en zich, als vyand en rustverstoorder [sic] wereld, aan openlyke Straf blootgesteld had. (同盟諸国は三月十三日、ボナパルトは市民的社会的諸関係から放逐され、世界の安寧の敵、壊乱者として、公共的制裁の宣告を受けた、と宣言した。)

青地訳の関連する訳文は次の傍線部分である。

同盟の王侯直にボナバルテが信義を捨てて人民を残害する罪

状を挙て国人に触れ、天下治安を致す為に、諸軍一同速に扨郎察に馳向て兇賊を退治すべきを命じたり。

「信義を捨て」は *zich van de burgerlyk en maatschappelyke betrekkingen losgemaakt*. (市民的社会的諸関係から放逐され) を、また「人民を残害する罪状」は *als vyand en rustverstoorder [sic] wereld, aan openlyke Straf blootgesteld had* (敵として、世界の安寧の壊乱者として、その身に公開処刑の宣告を受ける) を苦心して訳そうとした結果である。

最終章「ベル・アリアンス農場」は青地自身「此条誠に読がたし故に略訳す」と注記しているように、全章を通じて最も理解し難い章であった。あえて、訳文と原文との対応関係を列挙しよう。

訳文「夫悪虐終に幸を得て、天日永世に暗からんとす。」

原文「Daar zag *Napoleon* de *zou zyns geluks, zoo de menscheid* hoopt, voor *Eeuw* wig tanen.」(ナポレオンは、万人の望んだように、その幸運の太陽が永久に陰りゆく姿を見たのだ。)

訳文「二人相助て兇賊を打て、再万民和平の勲を建しハ、

正に此府と同じく不朽の名を伝へ、」

原文「daar ontving van deze byeenkomst deze laatste, bloedige kamp met den dwingeland voor de rust en het heil der volken den eernaam van slag des schoonen verbonds. Dus zal deze hoeve in de gedenkschriften der menscheid en door het graveersift vereeuwigd worden. (フ)レ、両者の会见から、諸国民の平安と救済のための、暴君に対する最後の、そして流血の陣地は、麗しき同盟の戦いという榮譽ある名前を受け取ったのだ。したがって、この農場は人類の記念碑(的歴史書)にその名を刻まれ永遠になるだろう。)

訳文「人々をして天道善に帰^{かへ}するを鑑^{かた}ミしらしむ。」

原文「en by haren naam zullen tyd genooten en naneven zich herinneren, welke groote dingen God gedaan heeft.」(この名を聞けば、同時代の人々も後世の人々も、神が如何に偉大な御業をなし給うたか、を忘れることはないだろう。)

訳文「是此記にあらハす所にして、衆官此を無価の宝とすべきものならん。」

原文「Als een voorwerp van waarde beschouwd wordende, dewyl zy gestadig eene der belangrijkste gebeurtenissen herinnert, is er in der daad ook reeds veel geld voor geboden.」(農場は重大極まる出来事のひとこを絶えず想い起させる。そのため価値ある記念物と考えられており、実際すでに多大の資金が寄せられてゐる。)

青地の原文理解を妨げたのは、知覚動詞の用法、倒置文や複文の構造という統辞法上の困難のみではない。ワートルローの戦いという世界的展開を「神の偉大なる御業」(welke groote dingen God gedaan heeft)と捉えるキリスト教的歴史観は青地の理解を超えていた。青地は、「兇賊」ナポレオンを討伐した連合軍の勝利は「天道」が「善に帰^{かへ}した結果である、という、道德論的な「天道福善」(天道は善に福す)観で、難解な原文を把握しようとするのであ

註

(1) 神田外語大学附属図書館ホームページ掲載。https://kuis.libguides.com/1d.php?content_id=43054130

(2) 磯崎康彦(二〇〇五)：『江戸時代の蘭画と蘭書―近世日蘭比較美術史―下巻』、第一六章第三節「天文台でのナポレオン追求」、四一六、四一八頁。

(3) 同書、第一六章第五節「ナポレオンの肖像、描かれる」、四四二頁。

(4) この記載では、標目に円形銅版図を収めるメダルの製作者Stetner, J. を掲げ、メダルの刻文(ドイツ語)二種と解説冊子の巻頭題題(オランダ語)を採用しているが、冊子は匿名出版(作者不明)である。また、「Gblz. 12p.」は銅版図の記述である旨が明示されていない。

(5) 住田正一編『日本海防資料叢書』第三卷(海防史料刊行会、一九三三)、所収「近時海国必読書卷之五」、一三六頁。

(6) 塚原晃(二〇〇七)：「近世日本におけるワテルロー戦闘図の流布と制作について」『神戸市立博物館研究紀要第23号』、一一頁。この塚原論文は桂川家本「和蘭王子奮戦図」に関連する作品として、同じくワテルローにおけるオランダ皇太子の奮戦を描いた、伝亜欧堂田善筆「ワテルロー戦闘図下絵」(須賀川市立博物館蔵)および銅版画「ワテルロー戦闘図」(玉岡藤璞模範、香川大学附属図書館神原文庫所蔵)および「玉岡藤璞系」を考察し、「田善も高橋を介して桂川家本を実見

し、これを参考にして、銅版によるワテルロー戦闘図の制作に取り組んでいたことも可能性として考えられる」とする。筆者は後者を二〇〇四年七月二十八日に調査し、宇田川榕菴旧蔵資料と判断したが、「玉岡藤璞」の素性は不明であった。内田洗(二〇一三)は「玉岡藤璞」が松江藩支藩広瀬藩の藩主に仕えた天保期の蘭画家本多玉岡(生年不詳―一八六五)であることをつきとめ、雷洲・玉岡・榕菴のネットワークを想定している。内田洗「西洋画家安田雷洲の画業再考―住居・作品の原図・蘭学ネットワークと海防思想をめぐって―」『美術史』63(1)七五―七六頁、参照。

(7) 本稿では以下、磯崎康彦(二〇〇五)が与えた日本語書名「一八一五年の最も注目すべき戦事」は採らず、簡便な拙訳「一八一五年戦役要録」を用いる。

(8) 以下、「魯西亜人モウル存寄書」からの引用は、後述の国際日本研究センター所蔵天文方洪川家文書の写本、坤冊による。参照すべき翻刻・解説に岩下哲典・松本英治「明海大学図書館所蔵『模烏兒獄中上表』上下について(上)」『明海大学教養論集』一一号(一九九九)、同(下・完)同一五号(二〇〇三)がある。

(9) 一八一〇年七月九日のオランダ併合令(Décret portant réunion de la Hollande à l'Empire, du 9 juillet

- (10) の第一条「オランダは帝国に併合する」(La Hollande est réunie à l'Empire)、『第二条「アムステルダム市は帝国第三の都市となる」(La ville d'Amsterdam sera la troisième ville de l'Empire).』参照。
- (11) 国際日本文化研究センター所蔵、天文方洪川家文書第五冊、縦二二・二cm、横一六・一cm所収、全一三丁。青地林宗の翻訳草稿に近い写本と思われる。
- (12) 『洋学の書誌的研究』(一九九八、臨川書店)、六四七～六六八頁。
- (13) 著者と推定されているテルバール (François Thomas Delbare¹ 一七三〇～一八五五) は同時代に多数の反ナポレオン文書を刊行しているが、なかでもナポレオンのパリ侵攻(一八一五年三月)で国を追われたルイ一八世に、同年五月二九日付でパリから捧げた「一八一五年三月反乱に関する国王への書簡詩」(Épître au roi, sur la révolte du mois de mars 1815. Paris. Les Marchands de Nouveautés. 1815.)では、王位の名譽と国民の自由を蹂躪したナポレオンへ復讐し、社会への模範を示されよ、と国王に呼びかける。 <https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/pt6k6240363b/F3image> 参照。
- (14) 二〇一八年一月一日、代わりに補正版を同ホームページに掲げた。註(一)参照。
- (15) この写本に原題はなく、「蘭書抜粹録」は目録上の書名である。松田清編「神田外語大学附属図書館神田佐野文庫所蔵 若林正治コレクション 蘭学資料目録(補正版)」電子版 http://kuislibguides.com/1d.php?content_id=43054130 二〇一八年一月一日、pp. 50-52. [D182 蘭書抜粹録](整理番号 32837) 参照。
- (16) 当初、「鷹見家歴史資料目録」茨城県古河市教育委員会、一九九三)記載の鷹見泉石旧蔵品を見落としていた。
- (17) <https://lhwei.gbv.de/DB=2/SET=2/TTL=5/SHW?FRST=5>
- (18) <https://www.invaluable.com/auction-lot/france-napoleonic-wars-series-of-12-contemp-4430-c-1db0d8db5b>
- (19) この新収品は展示「明治一五〇年 神田佐野文庫公開記念 洋学貴重資料にみる絵と言葉―江戸から明治へ―」(二〇一八年一月一日～一六日、於神田外語大学附属図書館)への出品と収蔵のため、特別の展示兼用収納箱のなかに固定した。本稿に掲げる写真の多くは、収納以前に撮影したものである。
- (20) 『一八一五年ナポレオン戦役彩色銅版図貼交』は註(18)に述べた展示に出品された。
- (21) 『鷹見家歴史資料目録』の当該記載に、「6b1z. 12p.」

とあるところから、鷹見泉石旧蔵品の銅版図は六枚（一二図）からなり、一枚（二図）欠如していると推定される。

(21) 「阿蘭人手授合戦真図 二枚一幅」に関する静山の記載は詳細なものである。稿を改めて論じたい。

(22) 今泉源吉『蘭字の家桂川家の人々 続篇』（篠崎書

林、一九六八）、三八二、三八七頁。

(23) 『日本科学古典全集 第六卷』所収『気海観瀾』一一頁の「気海観瀾序」読み下しによる。

(24) Frédéric Schoell, *Recueil de piéces officielles destinées à dépromber les François*. T. V. Paris, 1815. p. 2.